

第1章 理念・目的

- 資料 1-1 <http://www.thcu.ac.jp/about/regulations.html> (寄附行為・大学学則・大学院学則)
- 資料 1-2 <http://www.thcu.ac.jp/about/idea.html> (建学の精神)
- 資料 1-3 <http://www.thcu.ac.jp/topics/detail.html?id=2017> (各学部、研究科大学パノラマ)
- 資料 1-4 <http://www.thcu.ac.jp/topics/detail.html?id=2043> (学生募集要項)
- 資料 1-5 <http://www.thcu.ac.jp/topics/detail.html?id=2271> (スタートアップサイト)
- 資料 1-6 <http://www.thcu.ac.jp/snsinfo.html> (SNS 公式アカウント)
- 資料 1-7 <http://www.thcu.ac.jp/english/> (大学ウェブサイト英文 ver.)
- 資料 1-8 <http://www.thcu.ac.jp/about/jikotenken/> (自己点検・評価)
- 資料 1-9 <http://www.thcu.ac.jp/about/vision.html> (東京医療保健大学ビジョン)
- 資料 1-10 <http://www.thcu.ac.jp/about/keikaku.html> (第3期中期目標・計画)

第2章 内部質保証

- 資料 2-1 <http://www.thcu.ac.jp/about/disclosure/> (教育情報の公表)
- 資料 2-2 <http://www.thcu.ac.jp/research/human.html> (生命科学・医学系研究に関する情報公開)
- 資料 2-3 <http://www.thcu.ac.jp/research/bulletin.html> (大学紀要)
- 資料 2-4 <http://www.thcu.ac.jp/faculty/htkango/> (東が丘・立川看護学部年報)
- 資料 2-5 <http://www.thcu.ac.jp/about/nintei.html> (大学の評価結果)

第3章 教育研究組織

- 資料 3-1 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1303001.pdf> (国際交流センター規程)
- 資料 3-2 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1304001.pdf> (感染制御学教育研究センター規程)
- 資料 3-3 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1305001.pdf> (放射線看護研修センター規程)
- 資料 3-4 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1307001.pdf> (産後ケア研究センター規程)
- 資料 3-5 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1306001.pdf> (情報教育研究センター規程)
- 資料 3-6 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1201005.pdf>
<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1202005.pdf>
<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1203005.pdf>
<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1204002.pdf> (各研究科自己点検・評価委員会規程)
- 資料 3-7 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1201006.pdf>
<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1202006.pdf>
<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1203004.pdf> (各研究科FD委員会規程)
- 資料 3-8 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0202016.pdf> (国際交流委員会規程)
- 資料 3-9 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0802001.pdf> (国際交流に関する基本方針)
- 資料 3-10 海外研修の実施状況 (令和元年度～令和3年度)

第4章 教育課程・学習成果

資料 4-1 <http://www.thcu.ac.jp/topics/detail.html?id=1539> (COVID-19 対策本部情報発信)

資料 4-2 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1310003.pdf>
(学修基盤推進室の設置に関する要綱)

第5章 学生の受け入れ

資料 5-1 http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/disclosure/4/admission_policy.pdf
(「入学者受け入れの方針」(アドミッション・ポリシー)について)

第6章 教員・教員組織

資料 6-1 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0605001.pdf> (教員組織の編成方針)

資料 6-2 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0605002.pdf> (教員選考規程)

資料 6-3 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0605003.pdf> (教員選考基準)

資料 6-4 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0202004.pdf> (全学FD・SD委員会規程)

資料 6-5 http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/disclosure/6/r2_merged.pdf (授業評価結果)

資料 6-6 令和3年度「東京医療保健大学を語る会」実施結果

第7章 学生支援

資料 7-1 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/disclosure/9/shien.pdf> (学生支援に関する基本方針)

資料 7-2 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0401002.pdf>
(スカラシップ創設要綱・スカラシップ制度内規)

資料 7-3 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0401003.pdf>
(大学院医療保健学研究科修士課程スカラシップ創設要綱・スカラシップ制度内規)

資料 7-4 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0401004.pdf>
(大学院医療保健学研究科博士課程(感染制御学)スカラシップ創設要綱・スカラシップ制度内規)

資料 7-5 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0701014.pdf>
(東京医療保健大学ハラスメントに関する取扱細則)

資料 7-6 ハラスメント防止のためのガイドブック

資料 7-7 学生相談(カウンセリング)

資料 7-8 令和3年度卒業生学科別進路状況(令和4年4月1日現在)

資料 7-9 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0501008.pdf> (学友会規約)

資料 7-10 令和3年度医療保健学部及び東が丘・立川看護学部卒業生アンケート実施結果について

第8章 教育研究等環境

資料 8-1 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1001001.pdf>

(環境整備に関する実施計画)

資料 8-2 科学研究費補助金に関する全学説明会実施状況(令和元年度～令和3年度)

資料 8-3 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0801009.pdf>

(研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程)

資料 8-4 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0801010.pdf>

(研究資料等の保存に関するガイドライン)

第9章 社会連携・社会貢献

資料 9-1 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0803001.pdf>

(社会連携・協力に関する基本方針)

資料 9-2 各地方自治体との廉健・協力に関する協定書

第10章 大学運営・財務

(1) 運営

資料10-1 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0601001.pdf> (学長選考委員会規程)

資料10-2 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0602001.pdf> (副学長選考規程)

資料10-3 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0603001.pdf> (学部長選考規程)

資料10-4 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0603002.pdf> (学科長選考規程)

資料10-5 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0603003.pdf> (大学院研究科長選考規程)

資料10-6 <http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1101002.pdf>

<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1102001.pdf>

<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1103001.pdf>

<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1104001.pdf>

<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1105001.pdf>

<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1106001.pdf>

<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1201001.pdf>

<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1202001.pdf>

<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1203001.pdf>

<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/1204001.pdf> (各学科・研究科教授会規程)

資料10-7 全学委員会委員名簿

資料10-8 学校法人組織機構図

資料10-9 東京医療保健大学組織図

資料10-10 令和3年度研修会の主な参加状況

(2) 財務

資料 10-11 財務に係る年度別比率の目標について(平成29年度～平成33年度)

海外研修の実施状況（令和元年度～令和3年度）

<全学合同海外研修> 毎年度2回、9月（オーストラリア）と3月（ハワイ）にて実施。各学部・学科から希望する学生・大学院生名程20度が参加。R2年度から現在まではオンライン研修。

実施年度	訪問地	訪問先 (医療施設、大学等)	内容
令和3年度	(3回グリフィス大学オンライン研修) オーストラリア・ゴールドコースト市 オンライン訪問 R3. 9. 13(月)～ 9. 21 (火)	○グリフィス大学ゴールドコーストキャンパス (オンライン訪問) (COVID-19によるパンデミックのため渡航禁止が継続し現地研修は中止。 その代替として第3回目となるグリフィス大学オンライン研修を実施した。)	事前研修： ・本学独自のオリエンテーション ・講義：オーストラリアの医療と日本の医療 本研修： ・オンライン研修・授業に関するGUによるオリエンテーション ・グリフィス大学およびゴールドコースト市の紹介 ・英語の授業（医療・保健・オーストラリアの文化等に関連する内容。「読む」「書く」「聴く」「話す」および「文法」を盛り込んだ授業内容） ・講義1：オーストラリアの医療制度及びオーストラリアの医療専門職について ・講義2：オーストラリアの看護・看護師 ・講義3：オーストラリアの管理栄養 ・グリフィス大学留学生たちとの交流 ・プレゼンテーション：オーストラリアのワイルドライフ
	(オンラインハワイ研修) ハワイ州ホノルル市 オンライン訪問 R4. 3. 21 (月)～3. 17 (木)	シャミナード大学（ハワイ州ホノルル市）（オンライン訪問） (COVID-19によるパンデミックのため渡航禁止が継続し現地研修は中止。 その代替として、今年度初めて、シャミナード大学を中心としてオンラインハワイ研修を実施した。)	事前研修：オリエンテーション／英語での発表の準備／事前講義：移植医療について 講義1：シミュレーションと看護教育 講義2：ハワイ人の食事と健康 講義3：アメリカの高齢者医療 講義4：在宅医療におけるITの活用 講義5：アメリカの病院における臓器移植 講義6：アメリカの管理栄養士の仕事 プレゼンテーション 交流：ハワイと日本の文化について、それぞれの学生が発表 ハワイの自然と文化：バーチャルツアー2本

実施 年度	訪 問 地	訪 問 先 (医療施設、大学等)	内 容
令和 2 年度	<p>(第1回グリフィス 大学オンライン研修)</p> <p>オーストラリア・ ゴールドコースト市 オンライン訪問 R2. 9. 23(水)～ 9. 25(金)</p>	<p>○グリフィス大学ゴールド コーストキャンパス (オンライン訪問)</p> <p>○ホームステイ (オンライン訪問)</p> <p>(COVID19 によるパンデミック により渡航不可となり現地研 修は中止。その代替としてオン ラインでの研修を実施し た。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修・授業に関する オリエンテーション ・英語の授業 (医療・保健・ オーストラリアの文化等に 関連する内容。主として「読む」 「書く」が中心) ・オーストラリアの医療制度と COVID19 への対応 (講義) ・グリフィス大学留学生とのオン ライン交流 ・オンラインによるホームステイ を通じ異文化理解・交流・英語 力の向上を図る
	<p>(第2回グリフィス 大学オンライン研修)</p> <p>オーストラリア・ ゴールドコースト市 オンライン訪問 R3. 3. 17(水)～ 3. 23(火)</p>	<p>○グリフィス大学ゴールド コーストキャンパス (オンライン訪問)</p> <p>(COVID19 によるパンデミック のため渡航禁止が継続し現地 研修は中止。従来はこの時期 はハワイ研修を実施している が、ハワイでのオンライン 研修も不可となったため、 その代替として本年度2度目 のグリフィス大学オンライン 研修を実施した。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修・授業に関する オリエンテーション ・グリフィス大学およびゴールド コースト市の紹介 ・英語の授業 (医療・保健・ オーストラリアの文化等に 関連する内容。「読む」「書く」 「聴く」「話す」および「文法」 を盛り込んだ授業内容) ・講義 I: オーストラリアの医療 制度と COVID19 への対応 ・講義 II: オーストラリアの 医療専門職の教育と実践— 看護・看護師および栄養・栄養 士について ・グリフィス大学留学生たちとの 交流

「東京医療保健大学を語る会」実施結果について(令和3年度)

1. 趣旨等

- (1) 「東京医療保健大学を語る会」(以下「語る会」という。)は、平成17年度開学後初の卒業生を送り出す平成20年度から、「本学の教育に係る将来の夢を語ること」を趣旨として実施しております。
- (2) 「語る会」は、各教員の授業内容・方法等の改善を図ることを目的に、また職員にとっては各学科等の取組状況を把握する貴重な機会であることから、教員のFD活動及び事務職員のSD活動の一環として、毎年度1回全教職員が一堂に会して実施しておりました。
- (3) 令和3年度については、コロナ禍において感染拡大防止のため、昨年度に引き続きオンデマンドによる実施といたしました。
テーマは、「ICTを活用した将来の授業像及び教育実践例について」といたしました。

2. 概況

(1) 日程(オンデマンド配信期間)

令和3年11月1日(月)～12月31日(金)

(2) 方法

オンデマンド配信

(3) 実施状況

- 理事長から『大学教育とこれから考えること(第2編)』と題して講話をいただき、その後、医療保健学部医療情報学科及び東が丘看護学部看護学科教員より『ICTを活用した将来の授業像及び教育実践例について』発表をいただきました。

3. 参加者数

区 分	令和3年度 (オンデマンド配信)	令和2年度 (オンデマンド配信)	令和元年度
全教職員数	344	350	331
教 員	242	249	238
職 員	102	101	93
視聴数(累計)(※)	415	369	—
アンケート回収数	253	158	142
教 員	186	125	113
職 員	67	33	29
アンケート回収率	73.5%	45.1%	42.9%
教 員	76.9%	50.2%	47.5%
職 員	65.7%	32.7%	31.2%

※視聴数(累計)は、1人が複数回視聴した場合を含む。

【アンケート内訳】

区 分	教員数	回収数	回収率
医療保健学部 看護学科(助産含む)	54(28)	40	74.1%
医療栄養学科	24(3)	21	87.5%
医療情報学科	17(3)	13	76.5%
医療保健学研究科	5(専任)	5	100%
東が丘看護学部 看護学研究科	41(22)	23	56.1%
立川看護学部	28	19	67.9%
千葉看護学部	36(20)	28	77.8%
和歌山看護学部 和歌山看護学研究科	37(12)	37	100%
小 計	242(88)	186	76.9%

※教員数の()は大学院兼務教員数。

区 分	職員数	回収数	回収率
事務局等	102	67	65.7%
その他(学外役員等)	—	—	
小 計	102	67	

合 計	全教職員数	回収数	回収率
	344	253	7.5%

【アンケート結果】

大いに参考になった	参考になった	その他	計
133(52.6%)	120(47.4%)	0(0%)	253(100%)

(主な記述)

1. 視聴された感想等

- ・ 大学教育が変容するに付け、リベラルアーツが大切だとの理事長のメッセージに感銘を受けた。
- ・ 理事長の講話を通じて、教育に携わる者として基本的人権の重要性を改めて認識した。
- ・ 自調自考の教育の中で、当事者意識が肝要であるという考えに感銘を受けた。自分自身に置き換えて物事を考えるという事がアクティブ・ラーニングの根源であると私も思う。今後教育の現場で至要たる事である。
- ・ 理事長からのリベラルアーツや学問の発展に関するお話が特に印象に残った。また他学部・他学科の先生方からのお話を伺うと、大変刺激になった。
- ・ これからの時代を見据えた理事長の教育に対するお考えに感銘を受けた。当事者意識をもった Agency をはぐくむ教育に取り組んでいこうと思った。
- ・ 講義への ICT 活用の参考となった。
- ・ 自ら考え、主体的に行動して、責任を持って社会変革を実現していく「力」を養うアクティブ・ラーニングを大学教育にて推進すべき背景を認識できました。
- ・ 各教師陣の実践報告を受け、対面・遠隔授業のメリットとデメリットを改めて確認することができました。コロナ明けに向け、対面授業である意味をこれからも考えたいと感じました。
- ・ 理事長講話では、リベラルアーツに関する事が印象に残った。また、各学部でのコロナ禍における ICT を活用した授業や演習、実習の進め方が参考になった。
- ・ 理事長からは、従来の高等教育のあり方、VUCA の時代における今後の高等教育のあり方等について全般的なお話と、本学としては何を根底として、今後どのように発展させるべきかの羅針盤を示してくださいました。
- ・ 理事長からの他者、社会へのまなざしのお話は、今の不自由な生活においてとても大切だと思いました。臨地に近い体験の機会を作ったり、実感を伴う学びを工夫したり、枠組みにとらわれずに考えたいです。
- ・ 将来的なビジョンと先々を予測して信念をもって教育に携わる必要性を再認識いたしました。

- ・ これからの大学教育を幅広い視点から考える機会になりました。本学が進もうとしている方向を、理事長の講話と各先生の具体的取組みから理解できました。
- ・ 今後は ICT を活用した授業運営が不可欠となりますが、その中でいかに対面授業を効果的に進めていくか、が重要になると考えました。これから入学してくる学生の学び方に応じた大学教育の見直しが必要と感じました。
- ・ 人は人とのかかわりによって成長すると思います。微妙な表情やしぐさ、声の大きさなどなど、ロボットやメールでは伝わり方が違うと思います。時代の変化を理解しつつ、自分のできることを考えていこうと思います。
- ・ AI 社会を見据え、学生とともに成長していくことの必要性を認識しました。将来の道は自身で決めさせることの重要性は共感しました。先生方もコロナ禍の教育に創意工夫で乗り切ってこられたご苦労が伝わってきました。
- ・ 理事長の講話はいつも深くて学びが多いと感じています。また、今泉先生と松山先生のお話は授業方法の実際についての情報提供であったので、今後の授業方法の検討の際の参考になります。
- ・ 人とのかかわりが希薄になりがちな今こそ、人文科学の重要性が増すのだと感じました。
- ・ 先生方の対面授業と遠隔授業の両立について、大変なご苦労と工夫が感じられ、とても心強く思いました。
- ・ エージェンシーの力をつけるためには当事者意識を持つ、持つためには基本的人権の考え方、人格的自立権が骨格として重要とのこと。人間力を高めるために何が必要なのかと聞いていたので、指標になりました。
- ・ コロナ禍でも到達目標達成のために様々工夫し教育されていること大変参考になりました。
- ・ 普段の業務からかけ離れている高尚なお話でした。もっと自己研鑽に努めたいと考えるきっかけになりました。
- ・ コロナ禍での授業が本学ではどのように行われているのかがよく分かった。今までは単にリモート授業やオンデマンド授業をやっているとしか認識がなかったが今回の会でその中身が分かり、勉強になりました。
- ・ コロナ禍での実習や授業について、他学科でどのように取り組まれたか、具体的に知ることができ、大変参考になりました。
- ・ 改めて東京医療保健大学の教職員としての意識を高めていただく機会となった。
- ・ 貴重な講演ありがとうございました。理事長講話の日本人口減、貴重な存在の学生たち、リベラルアーツの考え、人格的自律ができる人材を共に成長していきたいと思っています。
- ・ オンライン授業の功罪、AI が今後の教育に与える影響等様々な見地から分かり易く、今に置き換えご説明頂き、大変興味深いものでした。
- ・ コロナ禍により、急速に ICT を活用した教育が進んだゆえに、ICT ではできないことを明確にしていく必要を再認識しました。AI にはできない職種であり続けるためにも、これからの大学教育を考える機会となりました。

- ・次世代に向けての学習指導方法がどのように展開されているのかがよくわかりました。ライブで視聴できるようにしていただけると尚良いと思います。
- ・先生方ひとりひとりやり方が異なり、実際の体験例を見られることは大変貴重な機会だと思います。
このコロナ渦でどの様に学生のドロップアウトをなくし、質を保っていくのかが課題だと思います。
- ・講話を通して、Society5.0時代に突入した現在、創造性の高い業種や職種に対応できる人材の育成と、「自調自考」の精神を養う教育に移行しなければならない必要性を再認識いたしました。
- ・教育と社会・人類の歴史が深い関係にあることを改めて感じた。コロナ感染が人類の歴史を大きく変え、教育もまた変換の必要があることを再認識した。
- ・アクティブ・ラーニングにおいて学生自身が当事者意識を持つことで学びの効率が上がる。
教え合い、学び合いができる場の提供、キャンパスで行う対面授業の在り方について考えが深まりました。
- ・大学教育の求められることの根本的な考えについて、理解につながる内容であり、教員に求められることを考えなければならぬと感じました。
- ・理事長講話を受けて、令和6年に入学してくる学生たちは新たな学習指導要領下で学んでいくという事実を知り、そこに向けて準備が必要なのだと実感しました。
- ・松山先生が「学生が情報処理が出来ない」と言われていましたが、どれくらいの情報量なのか気になりました。今泉先生の講演で「臨床実習前に体験する」、細かに授業を設計することは、私も日々目標としているところです。
- ・理事長の講演を拝聴して、AI時代の教育について、人間性豊かな創造性ある人材育成の必要性をあらためて実感しました。
- ・理事長のお話は大学のことだけでなく、教育制度のことなど大局的な見地からの話など大変勉強になります。
- ・理事長の貴重な講話を受けることができ、新たな教育を受けた学生と学ぶことになるため、考え方を柔軟にしていく心構えができました。学生にとって本学での学びが有意義なものとなるよう貢献したいです。
- ・今後、どのような教育を受けた学生が入学してくるのか分かりました。18歳人口が減少していく中で生き残るには、社会人入学も広く受け入れるような入試と授業の運営も必要ではないかと考えました。
- ・どちらの学科の事例も拝見した感想としては、学生ごとに教材をパーソナライズすることで多様性、個別性への対応をしてきているが、教員のマンパワーも相当消費することもご承知おきいただきたい。
- ・オンライン授業から対面授業に戻した際に、モチベーションを保てない学生の対策や、オンライン実習の方法についても、大変勉強になりました。
- ・日々進化していく中で、学生と共に、教育職員だけでなく、事務職員も一緒に、進化し、成長していく必要があると強く感じました。

- ・理事長の講話ではAI時代における人間教育の重要性を改めて感じさせられた。先生方の発表では、ICTを活用した授業の具体例により、これまでイメージできなかった部分について理解度が深まった。
- ・対面に戻った時の、学生たちの「移動の価値」という表現を見た時に一番ドキッとした。自分の今までの方法を根底から考え直す良い機会となった。
- ・理事長講話を聴いて、あらためて教育の重要性を実感しました。他の学科の先生方がコロナ禍でどのような工夫をされて授業に臨まれているか関心がありましたが、お話を聞いて大変参考になりました。
- ・他学部等の教育の現状を知り参考とすることができただけではなく、本来の教育の在り方についても学ぶことができとても参考になりました。
- ・コロナを契機に急速に授業も進化していることがわかりました。学生は当事者意識の醸成が追い付かない様子も多々あります。学習者が何を学ぶのかに注目し、支援していきたいと思いました。
- ・今泉先生の医療情報学科の遠隔授業への取組の学生との向き合い方が、事務職員ではみえない視点で知ることができて興味深かったです。
- ・コロナの影響もあり、教育のありかたも大きく変わってきているなと思いました。また、それにどう対応していくかが学校側に求められていることであり、人気にもつながってくると思いました。
- ・オンライン授業でどのようにして授業の質を保っているか、ということが大変興味深かったです。
- ・いつも理事長のお話は感銘を受けます。一年に一回心が洗われる機会になります。
- ・各学科での取り組みは、いつも経費の精算をするのみでどんなことをしているのかわからなかったのが、少し教育の現場との距離が縮まった気がした。
- ・自調自考の教育方法は、今後も大切にしていきたい。AIがいくら発達したとしても物事を決定していく過程は重要である。大学生活の中で、体験が増えるよう関わっていきたい。
- ・東が丘看護学部の実習のように協力的な臨床施設があると具体的な実習方法を検討できてよいと思った。
- ・AIやロボットによる代替可能性が高い職業、これから来る人口減時代による変化などを知り、今後の人生を考えるきっかけとなりました。
- ・R6年度、新学習指導要項に対応した大学入試改革について、印象的であった。コロナを経験し授業形態も変化し、人口動態も若年層の低下、AI普及で、時代が移り変わる印象をもった。
- ・将来はAIが生活の中に入ってくることを想定し、今後の教育をどうしていくか、講義でICTをどのように活用するかも考えさせられるとても興味深い内容でした。
- ・「アクティブ・ラーニング導入の意義」のところで、講義は5%の影響しかないというのは驚きましたが、考えてみるとよほど印象に残ったことや衝撃的なことしか覚えていないかもしれないとも思いました。

- ・何を学ぶか、どのように学ぶか、その結果何ができるかという言葉がとても気になりました。学生自身が求めている事を自分で切りひらき考えて欲しいと思いました。
- ・理事長のお話をお聴きすると未来への展望も持てますし気持ちが新たになります。
- ・松山先生の現場との連携ありきの実習も、大変参考になりました。
- ・情報学科と看護学科の通信による授業の進め方がとてもよく分かった。また、通信授業の評価についても参考になりました。
理事長の講話の中では、現代の学生に対する教育の必要性を更に深く理解いたしました。
- ・今泉・松山教授の発表は、誰も想定していなかった新型コロナウイルス発生という状況下で、ICT を活用して、試行錯誤や創意工夫を重ね、悩み苦勞しながら教育活動を実践されていることがよく伝わりました。
- ・大学における心構えやあり方がとてもためになりました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度から授業形態が対面式からオンライン中心に変更してきていたが、今回の講演を聴き、大学の基盤となる理念を大切にしつつ移行できていたのか振り返る機会となった。
- ・理事長の講話がとても素晴らしいので、何回も見直し、授業等に活用できるようにしていきたいと思いました。ICT 活用についても参考となりました。
- ・これからの大学教育に求められることとして、「修得」を目指すということが印象に残りました。そのための内容や評価方法をしっかり設定する必要があると考えました。
- ・理事長講話では、毎年、大学教員として考え続けなければならないことをご教示いただき、襟を正す機会となります。
また、基礎看護学の代替実習の取り組みが同じ領域を担当する者として参考になりました。
- ・18 歳人口の減少に伴いこれからの大学に求められているものを改めて考えていかなければいけないと思いました。
対面授業だけではできない可能性がアクティブ・ラーニングにはまだまだあるのではないかと思います。
- ・コロナ渦においても、求められる大学を作るべく、大学が目指すべき位置、我々大学職員の目指すべき姿を再認識することができました。
- ・入学してくる学生が求めるものに、大学も対応しなければならない難しさを感じた。
- ・大学教育が社会に貢献していく為に、人文科学分野が行う研究が評価されていくことは、大変意味があると思いました。
- ・リベラルアーツの中の修辞学を学んでこそ、アクティブ・ラーニングの対話に深まりをもたらすのではないかと考えた。
- ・自分が受けてきた教育と異なる教育を受けてきた学生の方々と今後関わることとなります。柔軟な考え方で学生に接し、教育を実践していく重要性を認識することができました。

- ・時代の変化、学修者の変化に対応した教育内容・方法を考え、講義の質を向上させていく必要があると改めて感じた。これらのことを常に意識して学生と向き合っていたい。
- ・理事長講話の With コロナとポストコロナの大学教育については、大変参考になり、いろいろと考えて行く必要があると思った。
- ・教育の変化に合わせ、大学教育も変化が求められていることを改めて考える機会となりました。
- ・コロナ禍での ICT 化に関わり各学科先生方が大変なご尽力をされたかと拝察しますが、振り返りから今後の課題まで整理して共有していただき大変勉強になりました。
- ・基本的人権のためのリベラルアーツ教育の重要性を再認識でき、個人と社会のかかわりが、最後の孔子の言葉に集約されていることに感銘しました。また、コロナ禍の教員のご苦勞に感謝申し上げます。
- ・各学科の具体的な活動内容と理事長の講話から、本学及び教育者としてのビジョンとミッションを共有させていただくことができました。
- ・高大接続、大学の成り立ち、大学の在り方、など大変重要なテーマを深く取り上げていただき、非常に参考になりました。
- ・印象に残った事は、聞いただけでは5%しか記憶に残らないという理事長のお話です。教え合うと90%記憶されるので、仕事でも確認しあいながら取り組みたいと思います。日本の人口減少も、切実な問題だと感じました。
- ・学生の意見などもあり、今後の教授活動の参考になりました。
- ・学生がこれから社会で活躍するためにエージェンシーという要素を育成するためには、アクティブ・ラーニングといったインタラクティブな授業設計を行う必要があり、機械では代用できない業務であることを理解した。
- ・理事長のご講義の中の、人格的自律権とは自分の人生は自分で決める。これは AI では教育できない。というお言葉は日頃学生と向き合う中でとても大切にしなければならぬことだと思いました。
- ・ICT を利用した講義ができたのは、PC 貸与などあらかじめ環境が整えられていたからこそ成しえたと思います。また、今後の入試についてもこうした環境の差が受験者数に出てくると感じました。
- ・コロナ後の大学教育の在り方を考えさせられた。職員のボトムアップも必要なのだろう。
- ・教育について根本的な部分、現在の環境・状況に合わせた教育方法を今回学ぶことができた。学習が定着できるように工夫したいと思った。
- ・理事長の講話は見識が高いものであり、今後の大学教育を考える上で羅針盤となるものと感じました。
- ・理事長の人柄の素晴らしさと、教育への情熱を感じます。
- ・これからの大学における教育について、入学者の学習履歴を踏まえつつ、時代の変化に対応した教育を行う必要性が良く理解できました。
- ・学内の取組状況が全体に共有化されたことはいいことです。(一部の教員しか知らないことが多いため)

- ・大変勉強になりました。理事長はもちろんですが、今泉先生のお話は、テクノロジーに振り回されない教育を考えるためにも重要だと思いました。
- ・これまで実施してきた教育方法から ICT を活用した方法への転換が求められていること、学修評価を細分化して行うことの必要性について理解できた。ルーブリックによる評価について自領域でも利用していきたい。
- ・各キャンパスでそれぞれ工夫した授業、実習を行っており、今後の授業設計において非常に参考になった。また今後入学してくる学生の特性に合わせ、教員も臨機応変に対応にしなければいけないと感じた。
- ・ICT を活用した教育活動について、他学部の取り組みを知ることができ、非常に興味深かった。だが、どう手を尽くしても、やはり生身の患者さんとの関わりには敵わないと思ってしまう。
- ・AI には出来ない、人だからこそ出来る他人事では無く当事者意識を持ち相手と向き合うことの重要性、そしてロボットの思考では無い医療人の育成が今後より求められていくことを再認識出来ました。
- ・理事長の講話では、教育学の観点で過去から遡り今後に向けてご説明くださり、とてもわかりやすく興味深く学ばせていただきました。大学教育のあるべき姿や課題について非常に理解が深まりました。
- ・学習指導要領の変わり、その教育を受けた学生に対する、教員の準備としてどのようなことができるのか考えるきっかけとなった。
- ・理事長講話は大学や大学教育の在り方について考える機会となりました。初等・中等教育で示されている学力の 3 要素を社会人基礎力につなげていくことが大学教育の役割の一つだと思います。
- ・これからの教育という点で、今後どのような教育が必要か、さらに ICT を活用した将来の教育について考える機会となりました。
- ・教育改革への理事長の考えがわかりよかった。ICT 活用教育、オンライン実習は、頷くことばかりでした。ただし、危機的状況だから、教員学生ともに頑張れたところもあり、対面で率直な意見交換を試みたかったです。
- ・理事長のお話を通じて、大学教育に関するお考えを拝聴し参考になった。しかし、理想と現実（入学してくる学生の能力・資質）の乖離を感じ、入学後どの程度引き上げられるのか、悩ましく思った。
- ・同じ看護学科として、東が丘看護学部の遠隔実習の内容は大変参考になりました。
- ・これからどのような教育が求められているのかが理解できた。教員も社会のニーズに応じること、未来に向けて柔軟に対応しながら専門分野を開拓しつつ学生への教育を行っていく必要性を実感できた。
- ・ICT を活用した授業は参考になりました。
遠隔であっても双方向である内容であれば、学生の満足度や達成感が得られると感じました。
- ・Medi-EYE と本当の患者のローデータを使用した実習は病院との連携が必要と思います。学生にとっては実際の状況を学べて良いと思いました。

- ・対面であれば見える学生の進度を遠隔で確認することの難しさを感じています。また ICT の機能を使いこなせていないのを実感しています。
- ・新学習指導要領が施行された初の学生が 2022 年度入学生ということで、次年度の入学生が楽しみです。いろいろ言われてはいますが、専門職教育として伝えるべき内容は変わらないのかなと、楽観的にみえています。
- ・学長講話は毎回大変楽しみにしているとともに、「教育」について原点に戻り考える時間になります。
- ・ICT を活用した代替実習・教育用電子カルテについて、入力情報を精選し過ぎず、学修者が患者の状況から必要な情報を判断できる能力を得られるよう、評価を共有し合い、ICT ツールの知見を拡げていきたいと思いました。
- ・高校生や保護者から来年度は対面授業だけになるかとの質問を受ける事がありますので、先生方のお話は為になりました。オンライン授業への取り組みと課題やメリットなどを知る事が出来ました。
- ・コロナ禍で変遷していく世の中の動きを注視しながら、教育現場に携わるものとして何ができるのかを考え、精進していく必要があると感じました。
- ・自調自考の教育は、極めて重要性を増していると考えています。現代において、知識の獲得のハードルは下がっています。すでに、社会課題の中心は知識の運用に移っており、自調自考の教育は鍵を握っていると考えます。
- ・コロナ禍でのオンライン授業においてはアクティブ・ラーニングの意味が突き付けられました。今回は、自調自考の重要性や”学修者本位の教育”における学修課程と成果の可視化の意義について考えることができました。
- ・ICT を用いた現状の担当科目のメリット・デメリットを改めて整理し、次年度に活かしたいと考えます。学生のモチベーション維持のためにも学習成果の可視化は必要だと思いました。
- ・利他の心を、今将来のある人たちに広められるのでしょうか？
- ・先生方のご講義を視聴し、ICT 授業、あるいは対面授業でそれぞれの授業形態に応じて学生が何を学ぶのか目標設定を検討していくことが必要であると改めて理解することができました。ありがとうございました。
- ・理事長の講話を拝聴すると、現場から一步距離を置いて広い視野で教育について見つめ直すことができます。
- ・これから入学してくる学生たちは従来型ではない学力を身につけてきている点、特に身が引き締まります。今泉先生、松山先生の尽力された講義構築のお話も、大変心に迫ってきました。
- ・世界から見た教育の重要性と大学に求められている点を改めて学ぶことが出来ました。DX のスキルアップは日々の教育の中でどれほどできるのか悩ましい点もありますが、教育の質向上に向けて頑張っていきたいです。
- ・人類の歴史という文脈で、学問の発展と次世代への継承という大学の役割を再認識し、改めて身が引き締まる思いです。
- ・代替実習の実態が、分かりやすく説明されていた。大変勉強になりました。
- ・タイムリーなトピックが選ばれており、最後まで興味深く見入ってしまいました。

- ・ AI の進化によって、この先の仕事の仕方や大学教育の在り方の変化についての考察を楽しく聞かせていただきました。看護の分野においても技術的なことや知識よりもそれを使うことが重要になると思いました。
- ・ 今後の看護教育を改めて考え直す機会となりました。ありがとうございました。
- ・ 大学教育とは何か時代がさらなる情報社会に変化する中で、教員と学生の関係、どうしたら楽しく深く学べるのか考えさせられました。
- ・ 理事長の講話、今泉教授の報告は今後の授業運営、学習形態を考える上で大変参考になりました。これから入学してくる高校生を迎える準備、彼らにどのような学修の場を提供するのかが喫緊の課題と考えます。
- ・ 東が丘看護学部について、臨床としっかり連携されており素晴らしいと思った。領域実習のように長期間の実習でもこのような実習が行えるとリモート実習の場合でも学びが深められると思う。
- ・ 理事長の講話は、基礎に立ち返り「教育とは何か」という視点を再認識させられる貴重な時間と感じており、オンデマンド職員研修会では削られてしまったことが残念でした。今回久々にお話を伺って大変有意義でした。

2. 今回の語る会において理事長の講話及び各学科からの発表を視聴して、次回以降はどのようなテーマを希望されますか。

- ・ 2040 年に 18 歳人口が激減する中、本学がどう進むべきか、多様性に対応した教育体制はいかなるべきかの意見が聞きたい。
- ・ 各学部での教育に関する課題や工夫を共有できると良い。
- ・ 理事長が考える当学の未来像
- ・ 各キャンパスで取り組まれている遠隔授業の際の著作権の取り扱いについて、お聞かせいただければ幸いです。(例：遠隔授業の際の公衆送信について等)
- ・ 理事長の第三編を楽しみにしています。
- ・ 高大社接続、教育 PLUS—DX
- ・ 臨地実習経験の減少を担保する実践能力の育成とその評価方法
- ・ 理事長の教育に関する講話を希望します。普段の立ち位置と異なる視点から教育に触れることができる点が、看護の枠を外して大学教育を考える機会になります。
- ・ 大学教員の役割のひとつである研究について、他学部の先生方がどのような研究をしておられるのか(テーマの選択、方法、フィールドの選択、共同研究者など)は興味があります。
- ・ 「THCU の教育と卒業生の活躍について」：開学以降多くの卒業生を輩出している。卒業生がどのように社会で活躍しているのか、大学教育がどのような影響を与えたのかを理事長・教員・卒業生の対談として聞いてみたい。
- ・ 理事長の講話を拝聴し、社会が求める本学の位置づけを考えるきっかけとなりました。大学教育に携わる者として大変参考になり、次年度以降も社会全体の動きを捉えた本学の位置づけについてお伺いできれば幸いです。
- ・ 学部学科の各先生の専門性が分かるような話を聞きたいです。

- ・各学科からは、今年度のような素晴らしい教育内容・方法等など引き続き希望します。また大学間で共同研究等については、交流や教育にも繋がり興味があります。
- ・大学の将来像や、教学マネジメントについて
- ・これまで COVID-19 の影響下で、授業の形態も大きく変化した現状を確認しました。COVID-19 が沈静化して以降の授業形態がどのように変化していくかについてお聞きしてみたいと思います。
- ・ICT 活用と DX の方向性について知ることが出来ました。これから進めていく中で省察すべき項目も出てくるかと思しますので、また動画等で知る機会をいただけたらいいなと思います。
- ・令和 6 年より前になるとは思いますが、新カリキュラムに向けて、大学や学部としての方針など、お聞きする機会をいただきたいです。
- ・色々な学部学科の先生のご発表を聞いてみたいです。
- ・DX 時代を踏まえて、本学のホームページをより多くの高校生や市民に閲覧してもらえようとするための提案などを伺いたいと思います。他大学に比べて、検索しにくいことが課題と思っています。
- ・理事長講話の中で「高大接続」の話が出てきたが、それ以前に初等教育と中等教育の接続がうまくいっていない学生を多く見受けることから、アカデミックスキルの教育などについてのお話がきけたらよいと思った。
- ・大学入試改革について（今後の見通しなど）
- ・大学アクションプランにむけた活動の報告会など
- ・看護の現状
- ・今後、どのような生徒が増え、どのような対応が必要になってくるのか、引き続き知りたいです。
- ・また次回も各学科からどんな授業をしているのか聞いてみたい。こんなことをしているという発表だけでなく実際の授業も体験してみたい。
- ・物事に対しての意欲や自己効力感の低い学生が多くなっているように感じています。学生の向上心や気力、意欲を高めるための働きかけ、方策についてのお話を聞いてみたいです。
- ・ロボットプルーフ教育に関心を持ちました。自身でも情報収集したいと思いましたが、情報提供いただける機会があれば嬉しいです。
- ・学びの捉え方が変わってくる学生さんへの「評価」が難しいように感じます。何かお話が聞けたら嬉しいです。
- ・コロナ禍で実践した教育活動等を、コロナ収束後にどう活かしていくか、又はどう活かしたか。
- ・実習方法や内容、授業の工夫点、研究について
- ・発達障害の可能性のある学生への対応方法
- ・様々な特性や心の病などを抱える学生が増えてきている中で、その学生へ対してどのような対応ができるのかをテーマにしたいです。
- ・教学連携のあり方

- ・ 現代社会で問題や課題となる最新のトピックについての本学の考え方や目指すべき姿を共有できるテーマを希望します。
- ・ 大学教職員の働き方改革について。授業形態が変わるにつれて教職員の働き方も変わるはず。
- ・ 今後の厳しい日本を背負う学生には主体的に学ぶことが重要であるとよく分かりました。そこで、自主性をはぐくむ教員の関わり、教育の実際について希望いたします。
- ・ 多様性のテーマ、特に障がい者の学び、大学としての対応の在り方などについてお願いいたします。
- ・ 理事長の講話は、今まで通り将来的に日本・世界がどのような動きになっていくのかのお話しをお願いいたします。とても興味があります。
- ・ 今回同様にコロナ禍での実習や講義の内容、工夫について聞きたいです。
- ・ 近年発達している AI や機械学習といった技術を教育にどのように組み込んだ例などを知りたいです。
- ・ ポストコロナを見据え、引き続き大学教育の内容を中心に行ってほしい。
- ・ 教育的な内容が続いている印象もあり、少し全学のスケールメリットや学際性を生かした研究と支援体制などについても、みなさんとお話したいです。
- ・ 若手教員からの夢のある話を聞きたいです。
- ・ 学生の教育背景（教育カリキュラム・教育課程）を踏まえた教育・教授方法について
- ・ 理事長講話では、「大学の学びにけるリベラルアーツの重要性について」を引き続きお願いしたい。（専門科目の重要性ばかりが優先されています）
- ・ 今後の大学としての DX や総合研究所と各学部の共同について
- ・ ICT の活用ももちろんですが、若手研究者への支援も必要であると思いますので、科研費の獲得などについても話してもらいたい。
- ・ 大学教員として必要な教育学に関するテーマを希望いたします。
- ・ AI の理想と現実を知り、教育で AI を活用したり、AI とともに仕事、職業をしていくことを考えていく。
- ・ 今回の理事長のお話にあったような、これからの学生がどのような教育カリキュラムを経て入学に至っているのか、また今後の社会に必要な学生の育成という観点で、もう少し話をお聞きしたいです。
- ・ 卒業生との交流に基づく社会活動についてお伺いしたいです。
- ・ 文明の発展と人間の生きる意味のお話は非常に興味深く拝聴しました。医療を学ぶことの意味、教育、研究の意味を考えると、またそれを学生に伝えていくための本学の指針となるお話を伺いたいと思います。
- ・ 系列に中学・高校があるので、そちらの教育指導のあり方など、系列校の先生からお話を聞かせていただける機会があると、興味があります。
- ・ アクティブ・ラーニングや双方向授業展開等について、実践していることが本当に学生が求めていることなのかを検証したり、学生の学びにどのようにつながっているのかなど具体的に知りたい。

- ・自調自考へ、我々も学生もパラダイムシフトしなければならず、この境界を超えること及びそれを導くことに苦悩することがあります。ベストプラクティスなどがあれば、テーマとして扱ってくだされば、幸いです。
- ・新カリキュラムへの対応や、学科横断的な内容、引き続き ICT の活用について等
- ・理事長には、やはり引き続きリベラルアーツをベースに語っていただきたいと思いました。今回時間切れで話されなかったスライドも気になっています。
- ・日々変わる情勢の中での HOT なテーマにおいて、私たち医療従事者が取り組むべき課題など。
- ・日本語を母国語としない学生受け入れについて（グローバル化に向けた大学運営について）
- ・本行事が本学にとっての SD 活動の一環であるならば、次回は職員に求められる知識、意識、行動など改めて提示した上で、その後一人ひとりの成長に繋がる教育メニューが用意されることが望ましいと思います。
- ・コロナ禍に特化した内容や、大学として SDGs にどのようにかかわっていくかなど、最近の社会状況を踏まえた発表も聞いてみたいです。
- ・理事長から頂戴する、教育に関する歴史的変遷のご講義をいつも楽しみにしています。今後ご講義を頂戴できるとありがたいです。
- ・学生から発表があってもよいのではないのでしょうか。
- ・リモート実習やシミュレーション演習の評価をどのように行われているか、実例を含めてご紹介いただきたい。

あなたのなにげない言葉・態度に、
耐えている人がいるかもしれない。



さまざまな考え方・立場の人が集う大学のキャンパス。ちょっとした発言や行動に感じた不快感がハラスメントへと繋がり、学習・研究・就業に支障をきたしてしまう人もいます。東京医療保健大学では、「ハラスメントに関する取扱細則」(別項参照)を策定し、ハラスメント撲滅に取り組んでいます。

ハラスメントのないキャンパスをつくるには
どうしたらいいか、具体的に考えてみましょう。

*本冊子の画像はすべてイメージです。

ハラスメントを知る。

「そんなつもりじゃなかったのに……」と後悔する前に、どのような行為・言動がハラスメントになりうるかを理解することが大切です。

男女差なく、同性間でも起こりうる“セクハラ” セクシュアル・ハラスメント

教育・研究又は就業の場において、相手方の意に反する性的言動を行い、相手方に利益又は不利益を与えること及び就学、就労、教育・研究の環境を著しく損なうこと等。

たとえば――
■「セクハラにあうのは君が悪い」「そんな程度は我慢しろ」「寝かかせ」等言う。
■スリーサイズや体重など身体的スペックをしつこく尋ねる。
■コンパで男子全員による全裸芸があり、参加が苦痛だった。

学内の上下関係が引き起こす“アカハラ” アカデミック・ハラスメント

教育・研究の場において、優越した地位にある者が、その地位を利用して不適切で不当な言動を行うことにより、相手方に身体的・精神的な苦痛を与えること及び不利益を与えること等。

たとえば――
■授業中に教授から名指して罵詈雑言を浴びせられた。
■特に過失もないのに研究室への出入りを禁じられた。
■進級をたてに到底不可能な短期間での論文提出を命じられた。

職場の上下関係が引き起こす“パワハラ” パワー・ハラスメント

就業の場において、優越した地位にある者が、その地位を利用して不適切で不当な言動を行うことにより、相手方に身体的精神的な苦痛を与えること及び不利益を与えること等。

たとえば――
■上司に個人的に嫌われており結果を積み上げても昇進とは無縁。
■上司の信仰する宗教への入信を強要された。
■同僚のセクハラを上司に訴えたが問題を長期間放置された。

ハラスメントをふせぐ。

すべての人が加害者にも被害者にもなりうるハラスメントの防止には、ひとりひとりが当事者意識をもって取り組むことが必要です。

1 お互いの人格を尊重する

先輩/後輩、教育職員/学生など、大学には人間関係の序列がたしかに存在しますが、それは人格の優劣ではありません。普段から互いを尊重し信頼関係を築くことが重要です。

2 ハラスメント=人権侵害だと認識する

加害者側は悪意がない場合もあり問題が矮小化されがちですが、人の命を奪う事態に発展することもあります。ハラスメントを軽く考えず、その重大さを認識しましょう。

3 見て見ぬふりをしない

自分が直接の被害者ではなくても、ハラスメントの現場を見たり聞いたりした場合には積極的に介入しましょう。周囲の意識の高さはハラスメントの抑止力になります。

ハラスメントにあったら。

ハラスメントをそのまま放置していると、修復不可能なトラブルに発展しかねません。そうなる前に、問題解決のための行動を起こしましょう。

1 自分の意思を相手にはっきり伝える

加害者側はハラスメント行為を行っているという自覚がない場合もあり、黙っているとその言動が受け入れられていると誤解されたままになってしまいます。

2 状況を客観的に記録しておく

日時・場所・状況・具体的なやりとり等を、できるだけ客観的に書き残しておきましょう。問題を解決していくうえで重要な資料になります。

3 ハラスメント相談窓口を利用する

周囲に知られたくない場合には、裏表紙に記載された相談窓口を利用しましょう。相談員がガイドラインに従い、プライバシーを保持したまま問題解決に取り組めます。

8. 学生相談（カウンセリング）

学生が有意義に生活を送ることや学生生活における相談に応じるために、学生相談を行っています。学生生活で困ったこと、人間関係、学業、心身の健康、経済的なことなど、さまざまな相談に専門の相談員が応じます。日常的に保健室でも学内教職員が対応しますが、相談内容によっては学生相談室でのカウンセリングを受けることができます。

相談に関する内容や個人情報は厳守されます。相談は無料です。学生相談室での相談の予約は原則メールまたは電話で行ってください。相談員から日時・場所等を連絡します。

〔医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部〕

学生相談室の開室時間 月曜日～金曜日 9：30～16：30

学生相談室メールアドレス n-harada@thcu.ac.jp

電話 03-5779-5032（内線651）

〔和歌山看護学部〕

学生相談室の開室時間 火曜日 12:00～16:00（祝日・行事等により、変更の可能性あり）

学生相談室メールアドレス t-momose@thcu.ac.jp

電話 073-435-5820（内線118）

① 令和3年度 卒業生 学科別進路状況 (令和4年4月1日現在)

1 概況

- 全学部の新卒生就職内定率は99.8% (昨年度:99.2%)となりました。
昨年に続き残念ながら全学での就職率100%は達成できませんでした。
学科別の状況は2項のとおりです。

2 各学科の状況

(1) 医療保健学部 医療栄養学科

就職率: 98.7% (昨年同時期: 98.6%) (人)

就職希望者	就職	78
	未就職	1
進学	大学院	0
	大学、専門学校等	0
その他※		2
卒業延期		3
計		84

※その他: 就職活動はせず、学業等卒業を優先した(2)

(2) 医療保健学部 医療情報学科

就職率: 100.0% (昨年同時期: 95.3%) (人)

就職希望者	就職	24
	未就職	0
進学	大学院	0
	大学、専門学校等	0
その他※		3
卒業延期		3
計		30

※その他: 就職活動はせず、学業等卒業を優先した(3)

(3) 医療保健学部 看護学科

就職率: 100.0% (昨年同時期: 100.0%) (人)

就職希望者	就職	病院	101
		保健師	1
		企業他	0
	未就職	0	
進学	本学大学院	0	
	本学助産学専攻科	7	
	大学院等	1	
その他※		1	
卒業延期		3	
計		114	

※その他: 就職活動はせず、卒業と国試準備に専念した(1)

(4) 東が丘・立川看護学部 看護学科

就職率: 100.0% (昨年同時期: 100.0%) (人)

			計	臨床	災害
就職希望者	就職	病院	174	84	90
		企業他	0	0	0
	未就職	0	0	0	
進学	本学大学院	2	2	0	
	本学助産学専攻科	2	1	1	
	大学院等	1	1	0	
その他		0	0	0	
卒業延期		1	0	1	
計		180	88	92	

コース別内定率: 100.0% 100.0%

(5) 千葉看護学部 看護学科

就職率: 100.0% (人)

就職希望者	就職	病院	91
		企業他	5
	未就職	0	
進学	本学大学院	1	
	本学助産学専攻科	3	
	大学院等	2	
その他		1	
卒業延期		0	
計		103	

※その他: 国試不合格で資格取得を目指す(1)

(6) 和歌山看護学部 看護学科

就職率: 100.0% (人)

就職希望者	就職	病院	88
		企業他	6
	未就職	0	
進学	本学大学院	0	
	本学助産学専攻科	5	
	大学院等	1	
その他		0	
卒業延期		0	
計		100	

(注) 各学科の上記数字は平成30年度入学生であり、過年度生を含まない。

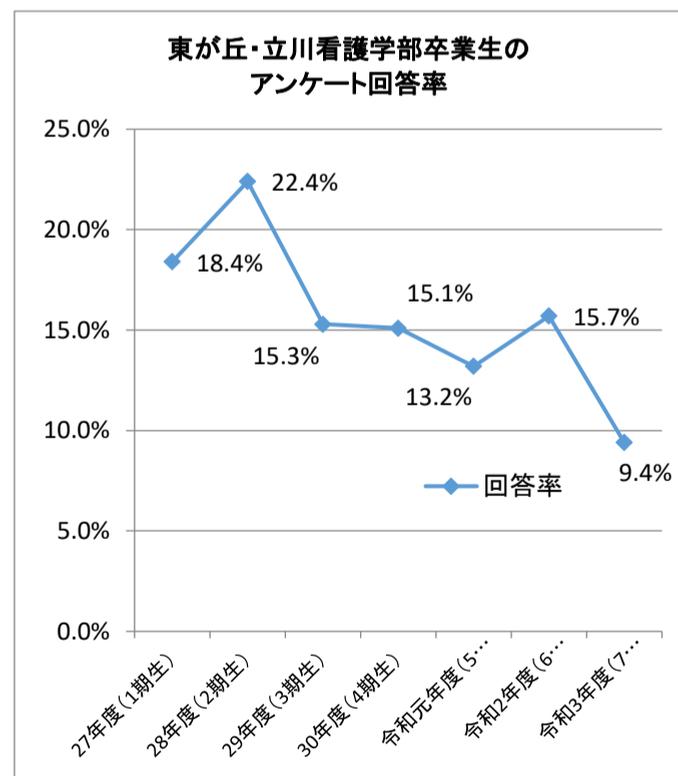
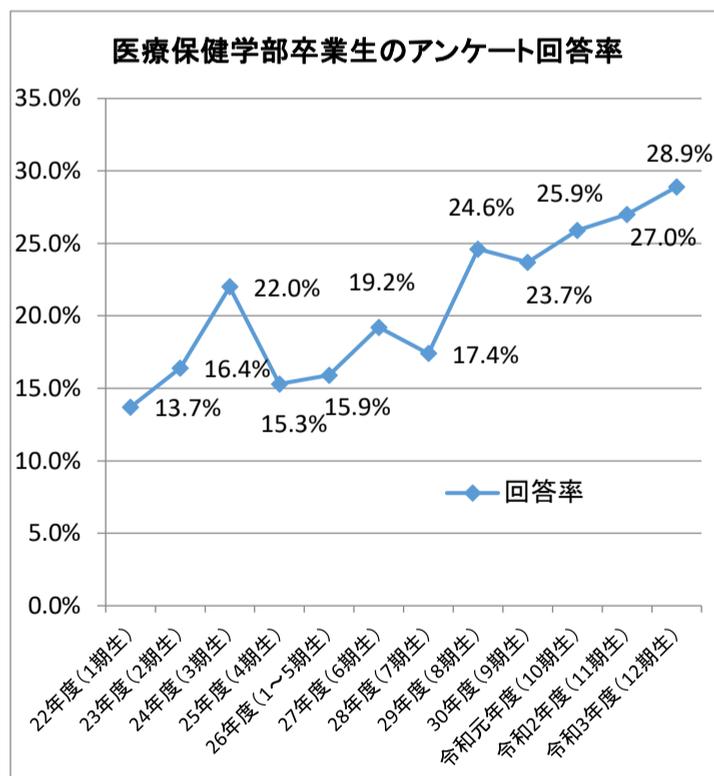
令和3年度 卒業生アンケート実施結果について

- 医療保健学部及び東が丘・立川看護学部卒業生の勤務先における状況を確認するとともに、大学在学時の学修や課外活動の感想を聞くために平成22年度以降毎年度卒業後1年を経過した卒業生を対象としてアンケートを実施しております。
- 令和3年度においては、医療保健学部12期生239名及び東が丘・立川看護学部7期生203名を対象として、卒業生アンケートを実施し(アンケート実施期間:令和3年8月1日～9月5日)、卒業後の就職状況及び大学時代の学び・経験で役に立っていること等について聞いております。
- 実施結果の概要は次のとおりです。アンケート結果については、授業内容・方法の改善充実や在学生の修学支援に活用を図ることとしており、各キャンパスに掲示するとともに大学点検評価報告書資料としてホームページに掲載いたします。

回答状況について

単位:人

学部	学科	対象者	回答者	回答率	記名者数	記名率	HPからの回答数
医療保健	看護	109	37	33.9%	19	51.4%	30
	医療栄養	106	27	25.5%	17	63.0%	23
	医療情報	24	5	20.8%	2	40.0%	2
	計	239	69	28.9%	38	55.1%	55
東が丘・立川看護	看護学科	203	19	9.4%	8	42.1%	14
総合計		442	88	19.9%	46	52.3%	69



【医療保健学部 看護学科】

Q1 卒業時の進路をお伺いします。

就職した	35
進学した	2
その他	0
計	37

Q2 卒業時の勤務先について教えてください。

病院・クリニック等	33
社会福祉施設	0
その他	2
計	35

卒業時の職種

看護師	34
保健師	1
助産師	0
計	35

Q3 在学時に就職先を決定した主な理由を教えてください。

仕事内容	10
福利厚生	4
勤務地	7
人間関係	7
その他	7
計	35

Q4 転職または離職されましたか。

	卒業後就職先			計	%
	病院・クリニック等	社会福祉施設	その他		
してない	33	0	2	35	97.2%
した	1	0	0	1	2.8%
計	34	0	2	36	100.0%

Q5 現在の状況について教えてください。

1)現在の進路

卒業後の進路 → 現在の進路 ↓	【就職】			進学・その他	計	%
	病院・クリニック等	社会福祉施設	その他			
【就職】病院・クリニック等	33	0	0	2	35	94.6%
【就職】社会福祉施設	0	0	0	0	0	0.0%
【就職】その他	0	0	2	0	2	5.4%
進学	0	0	0	0	0	0.0%
その他(進学以外)	0	0	0	0	0	0.0%
計	33	0	2	2	37	100.0%

【医療保健学部 医療栄養学科】

Q1 卒業時の進路をお伺いします。

就職した	26
進学した	0
その他	1
計	27

Q2 卒業時の勤務先について教えてください。

病院・クリニック等	6
社会福祉施設	1
ドラッグストア	3
給食委託	7
食品メーカー・卸	1
保育園	4
その他	4
計	26

卒業時の職種

管理栄養士(栄養士)	20
事務従事者	2
販売従事者	1
その他	3
計	26

Q3 在学時に就職先を決定した主な理由を教えてください。

仕事内容	16
福利厚生	2
勤務地	0
人間関係	0
その他	8
計	26

Q4 転職または離職されましたか。

	卒業後就職先							計	%
	病院・クリニック等	社会福祉施設	ドラッグストア	給食委託	食品メーカー	保育園	その他		
してない	5	1	3	6	1	4	3	23	88.5%
した	1	0	0	1	0	0	1	3	11.5%
計	6	1	3	7	1	4	4	26	100.0%

Q5 現在の状況について教えてください。

1)現在の進路

卒業後の進路 → 現在の進路 ↓	【就職】							【その他】 就職以外	計	%
	病院・クリニック等	社会福祉施設	ドラッグストア	給食委託	食品メーカー	保育園	その他			
【就職】病院・クリニック等	6	0	0	1	0	0	1	0	8	29.6%
【就職】社会福祉施設	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3.7%
【就職】ドラッグストア	0	0	3	0	0	0	0	0	3	11.1%
【就職】給食委託	0	0	0	6	0	0	0	0	6	22.2%
【就職】食品メーカー	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3.7%
【就職】保育園	0	0	0	0	0	4	0	0	4	14.8%
【就職】その他	0	0	0	0	0	0	3	0	3	11.1%
進学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
その他(進学以外)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3.7%
計	6	1	3	7	1	4	4	1	27	100.0%

【医療保健学部 医療情報学科】

Q1 卒業時の進路をお伺いします。

就職した	5
進学した	0
その他	0
計	5

Q2 卒業時の勤務先について教えてください。

病院、医療機関	2
---------	---

IT関連企業	3
医療機器関連企業	0
その他	0
計	5

卒業時の職種

診療情報管理士	0
SE(システムエンジニア)	3
事務従事者	2
販売従事者(営業含む)	0
その他	0
計	5

Q3 在学時に就職先を決定した主な理由を教えてください。

仕事内容	2
福利厚生	0
勤務地	1
人間関係	2
その他	0
計	5

Q4 転職または離職されましたか。

	卒業後就職先				計	%
	病院、 医療機関	IT関連 企業	医療機器 関連企業	その他		
していない	2	3	0	0	5	100.0%
した	0	0	0	0	0	0.0%
計	2	3	0	0	5	100.0%

Q5 現在の状況について教えてください。

1)現在の進路

卒業後の進路 → 現在の進路 ↓	【就職】				進学 ・ その他	計	%
	病院、 医療機関	IT関連 企業	医療機器 関連企業	その他			
【就職】病院、医療機関	2	0	0	0	0	2	40.0%
【就職】IT関連企業	0	3	0	0	0	3	60.0%
【就職】医療機器関連企業	0	0	0	0	0	0	0.0%
【就職】その他	0	0	0	0	0	0	0.0%
進学	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	2	3	0	0	0	5	100.0%

【東が丘・立川看護学部 看護学科】

Q1 卒業時の進路をお伺いします。

就職した	18
進学した	1
その他	0
計	19

Q2 卒業時の勤務先について教えてください。

病院・クリニック等	18
社会福祉施設	0
計	18

卒業時の職種

看護師	18
保健師	0
計	18

Q3 在学時に就職先を決定した主な理由を教えてください。

仕事内容	7
福利厚生	2
勤務地	3
人間関係	3
その他	3
計	18

Q4 転職または離職されましたか。

	卒業後就職先	計	%
	病院・クリニック等		
してない	17	17	94.4%
した	1	1	5.6%
計	18	18	100.0%

Q5 現在の状況について教えてください。

1)現在の進路

卒業後の進路 → 現在の進路 ↓	【就職】	進学 ・ その他	計	%
	病院・クリニック等			
【就職】病院・クリニック等	18	0	18	100.0%
【就職】社会福祉施設	0	0	0	0.0%
【就職】その他	0	0	0	0.0%
進学	0	0	0	0.0%
その他(進学以外)	0	0	0	0.0%
計	18	0	18	100.0%

Q6 学生時代を振り返り、役立っている①講座、②課外活動はなんですか。

主な自由記述の内容は次のとおりです。

【医療保健学部看護学科】

《 講 座 》	《 理 由 ・ 意 見 》
オスキー	
解剖生理学演習	自己学習、知的好奇心の刺激
体の仕組みと働き	基本を抑えていれば応用できるため
基礎看護	今に必要なことを学べていたから
基礎看護学、体の仕組みと働き、老年看護学	臨床で患者と関わる際の基礎を学べたから
機能看護学	受け持ち多い時の優先順位
①急性期看護学 ②基礎看護技術	①急性期の病院で外科病棟の為、術後管理などで役に立っている ②看護の技の基本だから
解剖生理学	必修
看護技術演習	直接的に活用できているから
看護実習	必須だから
基礎看護、在宅看護、急性期看護	高齢の方が多く、現在急性期病院で働いているから
基礎看護学	看護の基盤となる考えや知識、技術を学べるから。
基礎看護学	看護技術は1番仕事する上で必要であり、演習を行っていたことが活きているため。
基礎看護学	必修だった

基礎看護学Ⅱ？Ⅲ？	看護過程に関して、事例をもとに学ぶことができたから
急性期看護実習	急性期の病棟に就職したため
公衆衛生看護実習	直接保健師の住民への関わりを見ることが出来たため
実習	看護師の実際の仕事分かるから
助産関係、母性領域・小児領域	助産師として働く上で、母子や女性について学べたから。
小児・母性看護学	NICU・小児科・産科で働く際に授業で学んだ知識が活かしている
小児看護学	子どもを対象に看ているから
特になし	
病棟実習、医療安全、クリティカルシンキング	看護業務に取り組む時の考え方として、役に立っていると感じます。
老年看護	患者が高齢者が多いため活かすことができるため。
老年看護ゼミ	高齢者制度に興味があったため
老年看護学	ご高齢の患者が多いため。(特に認知症)
老年看護学、Word・Excelの授業	

《課外活動》	
FAST	大学以外で友達できた
MOS資格取得	研究でWordやExcelを使うことが多いため。
アルバイト	人とのコミュニケーションの取り方を学ぶため
アルバイト	お金のため
バイト	社会経験を積めたから。
ボランティア	就職活動に生かすことができたため
ボランティア	
該当なし	該当なし
実習は全てです。	患者の全身状態の観察に関して、もっと細かく、根拠を持って思考展開が行え、それを適切に表現できるように努力するべきであった。
病棟実習、施設実習	実際に見たことによりイメージがしやすいから
保健師実習	

【医療保健学部医療栄養学科】

《 講 座 》	《 理 由 ・ 意 見 》
①臨床栄養学 ②給食経営管理論	①加算、疾患に応じた栄養管理方法が仕事において必要である為、先生方が詳しく教えて下さいました。 ②厨房業務において必須の学問です。先生が熱心に教えて下さったので、仕事にとっても活かされております。
応用栄養学実習	離乳食作りに役立っている
給食経営管理論	現場で必要になってくる
給食経営管理論	給食の仕組みが理解できた
調理学実習	食材の切り方の種類、作り方を知っておくことは、今の仕事に役立っているから。

パソコン関連の授業	パソコンの知識は会社に入ってから教わるのがなく、エクセル・ワードなど使えるか使えないかで仕事にかかる時間も変わってくるため。
栄養教育論	実際に栄養指導を行う実習もあった為、栄養指導の際にそのまま役立っている。
情報(excel)	現在、営業部に配属されているため、日々Excelを使用して予算作成や売上管理を行っている。
情報(Word、Excel、PowerPoint)	職場で資料作成が多いため
食品衛生学	必修だった。
全部	
臨床、給食管理、公衆衛生	病院で栄養科を動かしていくために必要なく知識だから
臨床栄養、応用栄養、調理学	調理をやるようになったため
臨床栄養学	臨床の現場のため
臨床栄養学	

《課外活動》	
アルバイト	社会経験ができたから
アルバイト	お金を稼ぐ為や社会人経験をしておく為。
ゼミ	楽しかったし、卒業したらできない経験だった。
病院実習	病院へ行ってみないと経験できないことが沢山あった
ボランティア活動	現在でもそこで出会った方々と繋がりがあり、良い息抜きとなっている為。
学祭	就活時の話題づくりのひとつになった。学内で勉強以外のことに挑戦できてよかった。
病院実習	臨床の現場のため

【医療保健学部医療情報学科】

《 講 座 》	《 理 由 ・ 意 見 》
病院・企業実習	学生の内から社会経験をすることができ、進路の参考にもなったため。
プログラミング、SQL、HTML、ACCESS、VBA、コマンドプロンプト	業務で頻繁に活用しているから
①協働実践演習、 ②データサイエンス	①病院事務職であるため、医療者と仕事するが多く協働実践演習は働くうえでの相手の職種への理解などの基礎をなりました。 ②データサイエンスは、社会人になり多くのデータに触れることがあるため、データ分析の基礎知識を学生時代に少し得ることができたから。

《課外活動》	
アルバイト全般	病院でのアルバイトを行っていたことで、医療者や患者とのコミュニケーションの取ることなどは、ある程度適応できたため。
委員会	現在、職場で同様の委員会に任命され、その当時の活動などを振り返っているから
サークル活動(気持ちBECK)	人とのコミュニケーションを学べた
津村先生の紹介で企業でバイトしたこと	学生が多いバイトではなく、社会人の中でバイトできたことは雰囲気や業務内容を経験できたから

【東が丘・立川看護学部 看護学科】

《 講 座 》	《 理 由 ・ 意 見 》
各論実習	実戦のため
成老看護	様々な時期の患者に看護できたから
ゼミ、研究論文	レポートを書く機会が多いため
フィジカルアセスメント	現在養護教諭をしているが、フィジカルアセスメントの重要性をととも感じているから
一般教養	医療看護だけの知識だと偏りが出てたと思うから
各論	必須だったから。
看護に関する授業全般	いろんな分野のことを各講義で学んだことを今でも結構思い出すことがあるため。
看護技術	技術はそのまま仕事で使う
基礎看護学	一年生の時にテキストを見返すことができる。
成人看護学	現場でも使える技術や知識を学んだから
成人看護学のほとんど全てで、特に終末期がとても印象的に残ってます。ALS患者さんの話を聞けたり実際に文字盤を使ってのコミュニケーションをとれた事。全実習	終末期では、教科書やレジュメを参考にして病棟での麻薬のことや緩和ケアについて振り返ってます。実習は記録が辛かったです。1人の患者さんのことをじっくり考えられ、関わったことは、患者さんとの関わり方を学ぶこと、疾患や病態、家族やお金など色々背景に目を向けられるようになる第一歩だったと思います。ALSの勉強会が院内であった時に自分の意見を言えた。
成老ゼミ、卒業研究、成老の講義	成老の先生の講義は分かりやすいから。成老の先生方の話を聞いていると看護師として働く自分を想像できたから
訪問看護	自分の足で看護をしたことが記憶に残っている
看護学実践論	演習の事前、事後課題等でしっかり学びの定着ができ、根拠に基づいた看護援助を身につけられたから。
臨床コミュニケーション、精神看護学、急性期看護、家族看護、災害看護学	臨床で使うから。

《 課外活動 》	
3年の病院での各論実習	実際に患者の疾患を含めた状態をみて、勉強することで、イメージがつくようになって、考え方や看護主義などの経験が、国試勉強や、新人のときに役立った。
ACT	授業だけじゃ賄いきれない技術を教わった
サークル活動	バンドに興味があったから
バイト	コミュニケーション能力
ボランティア	コミュニティが広がっていた
街の保健室	年齢層の違う人と会話ができる
覚えていない	覚えていないため分からない
病院との災害訓練	災害など何かがあったときの行動について体験できたから

Q7 在学中、受講してみたかった講義、取得したかった資格があれば教えてください

主な自由記述の内容は次のとおりです。

【医療保健学部看護学科】

英語をもっと学びたかった。特に英会話。
外国語(しいて言うなら)
フランス語、TOEIC

もっと演習のある授業の方がより実践的だったと思います
リラクゼーション系
助産師の資格
保育士
保健師(4件)
養護教諭(2件)

【医療保健学部医療栄養学科】

TOEIC
サプリメント論
スチームコンベクションオーブンの使い方をしっかりと教わりたかった。
マナー講座 レストランのマナーなど含む
栄養教諭
介護食
語学

【医療保健学部医療情報学科】

ITパスポート以外の情報学科で取得できる資格全部
PC、プリンタなどの復旧の仕方
基本情報技術者試験(2件)
実用的な統計学・データ分析をもっと勉強しておくべきだったと思います。社会人になり様々なデータに日々触れることがあり、それらの関連あるデータを判断し分析できるようになっていれば、もっと貢献できることがあるように感じることもあるから。

【東が丘・立川看護学部 看護学科】

BLS
もう少し現場に近い講義を入れてほしかった。
解剖生理
看護必要度や重症度について
保健師(7件)
特にありません。当時の講座・科目で充分でした。
保健師。退院支援看護師にシャドーできる実習。

Q8 あなたが社会人として必要と考える能力や資質を踏まえ、後輩へのアドバイスをお願いします。

主な自由記述の内容は次のとおりです。

【医療保健学部看護学科】

1日1日、一瞬一瞬に、周囲をよく観察しながら、適切な行動をする。
学生時代に遊んでおけ
患者や同職種、他職種と関わる際のコミュニケーション能力がとても大切であり、円滑にケア、仕事を進める上で大切になってくる。
コミュニケーション能力、伝達能力が常に求められるので、先生や実習先の担当者などとのコミュニケーションを意識的にとると就職後も役に立つと思います。
コロナで勉強するのも大変な状況ですが、少しずつ前を向いて頑張ってください！
就職先で使える、必要な事を学び、必要な資格は学生時代に考え勉強することも大切だと思います。
積極性、自立心を保たせてくれる要素が職場や自分の動機の中にあるか
もちろん勉強は大切ですが、忙しさと義務や責任から自分を見失う事があるので学生のうちから自分を大切にしてください。
学習や実習を通して自分のやりたい分野を見極めること。その実践のために就職先などの進路を考えること。
学生のうちに遊ぶべき
環境への順応性と強靭なメンタルが必要です。頑張ってください。
看護技術や知識は実際に働く中で少しずつ身につけていけばいいと思うので、基本的な挨拶や礼儀は大事にした方がいいと思います。頑張ってください。
看護師は様々なところで活躍しているということ。病院で働いただけが看護師の役割ではないということ考えた上で今後のキャリア、人生計画を立てた方がいいということ。
自分で考え行動していくことが社会人には求められます。先生に言われるままではなく、なぜそうなのか、自分だったらどうするかを考える練習を学生時代にしっかり出来ると良いと思います。
自分のペースを大切に！
実習や学校とのギャップが凄いです。乗り越えられる精神が大事だと思います。リフレッシュの方法は色々あると凄くいいと思いました。
周囲への気配りや変化に気づける能力
出来たこと、出来なかったこと、何故上手くいかなかったか先輩に報告していた。気付いたら出来ることが増えていた。先輩が看護を行う上で何を大切にしているかも学ぶことができた。
助産師資格取るなら、地域の母子保健を理解するために保健師もあると良い
人とのコミュニケーション、自分から動く
人とのコミュニケーション方法
大学での講義は必ず臨床の場で役に立ちます。日頃の講義や、プリントなど社会人になっても活用できるよう分かりやすいまとめといた方がすぐ使えて良かったと思います。
大学生は授業参加の有無やその態度は比較的自覚と考へがちだと思います。ですが、専門職に就くことになるため、座学や実習を疎かにしないことが大切だと思います。そこでしっかり身につけた知識は社会に出たとき、必ず自分にプラスとなると思います。
分からないことを分からないと言えること、調べて身につける能力
本当に基本的なことですが、患者様や先輩に言われた事を早めに取り組むことが大切だと思います。

【医療保健学部医療栄養学科】

①コミュニケーション能力 ②後輩へ:学友との時間を大切に過ごしてください
先生方から学んだ事、就職活動は働く上でとてもためになります。学生生活での時間を大切に過ごして下さい。
とりあえず3ヶ月は仕事を続けてみよう
日々、大学で学んだことを応用できるよう、今学んでいることがどのように活かせるかを考えながら、授業を受けて欲しいと思います。
勉強が得意、できる人より、挨拶が出来て、向上心のある人が社会人として好かれて評価されると思うので勉強ができないことでそんなに悩まなくて良いと思います。

無理だと思っていたこともやってみると意外に出来るので挑戦をどんどんやって欲しい。
協調性は凄く大事だと思います。協調性のない後輩が入社してきて、とても苦勞している姿をみます。頑張って下さい。
最低限のマナー
積極性、向上心
先生に怒鳴られるくらいで心折れてたら社会でやっていけない
素直さや真面目な部分を自分のやってきた事の中で見つければ良いと思います。
相手の長所や尊敬できるところを見つける力。様々な人と関わり、相手の長所を見つける習慣をつけておくと仕事を楽しめると思う。
対人能力を磨き上げることを強くお勧めします
分からないことを素直に分からないと言える勇気が必要かなと思います。知らない単語、経験してないからどう対処したらいいの分からないことだらけです。先輩から声をかけてもらってからでは間に合わない場合も出てきます。社会人としてこまめにコミュニケーションをとり、報連相が出来ることがスベックよりも大事かなと思います。
勉強以外のことを頑張ってほしい。色んなところ行って色んな友達を作るべき！
様々な考えの人と仕事をしていくのは大変。どんな人とも話せるコミュニケーション能力はあったほうがいい。パソコンのスキルは一年生で学ぶため意外と忘れがちだが、在学中に覚え直しておくとう便利だと思う。
臨機応変に対応できるようにする能力をもったほうがよい。

【医療保健学部医療情報学科】

・データ分析力:病院であれば、ベッドコントロールや医療経営などに様々なところでデータ分析力があると凄く重宝されると感じています。・提案力:イベントや年間業務などを決める時など、事務職が企画し役割分担を提案することが多いように感じるので協力してもらえるような提案ができるようにすると良いと思います。
勉強と言う概念にこだわりのではなく、それを組み立てていく様々な視点が必要と考えています。成績に関わらず、それまでの道のりを大切に学習して行って下さい。
私の経験上、やりたいことや夢を持っている人は強さが違います。将来のことで迷っている人がいたら、まずそれを見つけることから始めるといいと思います。
少しでも不安や疑問があったら確認すること、曖昧で進めない

【東が丘・立川看護学部 看護学科】

1年目のうちはチームで動くことへの意識、協調性、メンバーシップが必要になります。看護技術等は、現場はイレギュラーなことばかりのため、心配しなくても大丈夫です。
1年目は体力気力が重要なので身体を休めて、運動でもドライブでもいいので気分を変えることができるようにしましょう
コミュニケーション能力、主体性、積極性を身に付けることは大切です。恐れずして下さい。
実践的な効率的で安楽なケアの方法や、転倒・転落のリスクやその予防法を学んでいたら強みになると思います。
ストレスマネジメント、ストレス解消法を決めておくこと。
看護以外の進路へ進むとしても、看護で学んだことは全て役立ちます。看護師になる気がなくても、教科書は捨てないほうがいいです。
看護師大変
自己発信能力と報連相、辛い時は辛いと言える事。病棟看護師経験はとても重要だと思うけど、外来や退院調整、緩和など多岐にわたる看護師の役割や想いにも目を向けて尊重していく視点が大事だなと思います。先輩それぞれに考えている看護感は違うので、良いところを参考にして自分の看護感を考えていけたらいいと思います。
自分で考えられる力
自分と相手を思いやる心。自身が潰れないように頑張って下さい。
自分らしく働ける職場を探すこと。
社会人として基本的挨拶等のコミュニケーション能力

人に対するの気遣いを大切に
人の話を聞く力。反応する。看護や患者に対する懸命な姿勢。人間の多様性を受け入れる寛容な心。プラス思考へ転換する力
先輩によって言うことが違ったりするけど、一旦全て感謝の気持ちで受け入れて、エビデンスを元にトータルで何がいちばん患者さんのために良い方法なのかと考えていくようにしています。
不安を一人で抱えず相談することも大切
社会人として必要と考えられる能力や資質は、自分が何を求められているかを理解しそこを目指して努力することだと思います。大変なこともあると思いますが、自分で自分を認めてあげながら頑張ってください！応援しています！

Q9 教育や進路・就職支援を含め東京医療保健大学全般の評価やご意見等がありましたら記入してください。

主な自由記述の内容は次のとおりです。

【医療保健学部看護学科】

実習で記録の時間が実習時間内にあったのは学生の頃はありがたかったですが、病院側としては短い時間の中でたくさんみて欲しい思いがあったので、ケアが何もないときの過ごし方を考えた方がいいのかなと感じました。「記録の時間」以外の空いた時間に部屋で記録しているともったいないと思われてしまってます。
とても親身になってサポートして頂きました。
とても親身に相談に乗ってくださったと思います。ありがとうございました。
夜勤の実習があってもいいと思う
座学やレポート中心でなく、もっと実践看護に近い内容を取り入れると良いと思います。
私はあまり就活が上手くいきませんでした。統合実習の担当教員に相談し、今の職場に決め、ここで働けることに満足しています。進路や就職支援に関しては感謝しています。ありがとうございました。
先生や学生支援センターの皆様にはとてもお世話になりありがたかった
先輩の面接内容など役に立ちました。支援は心強かったです。
保健師就職希望が1人しかいませんでしたが、先生がマンツーマンで小論対策などをしてくださったので安心して試験に臨むことが出来ました。

【医療保健学部医療栄養学科】

支援センターの方が手厚くサポートしていただいたので現在の職場に就職できたと考えております。早い段階から、就職についての講座等の時間を設けて下さった為、就活に真剣に取り組むことが出来ました。有り難うございました。
大学としては小人数の学校だったからこそ先生に質問しやすく、先生たちも生徒一人ひとり親身になって寄り添ってくれた。大学側としては合格率を気にすると思いますが、それは生徒の頑張りによって変化するもので、先生たちは私たちに最善を尽くしてくれていました。きっと小人数だからこそ出来たことだと思います。東京医療保健大学に入学して良かったと思いますし、管理栄養士を目指している学生にオススメしたい大学です。
もっと分かりやすく、学生が興味を持てるような授業をしてほしかったです。科目によっては、国試に関係ないのではと思うような内容ばかりの授業もありました。また、教科書を買わされたのに使わなかったり、とっても分かりにくい教科書だったり、学費も高いのに教科書代も高く辛かったです。高いお金を払うならもっと分かりやすい教科書にして下さい。教授の本だからという理由で買うのは本当に納得いきませんでした。
休講のお知らせ遅かった
就職支援はかなり手厚くして頂いた印象です。感謝でいっぱいです。ありがとうございました。
全体的に良かったと思う
転職先でTHCUの後輩が3日で辞めたというお話がありました。気まずかったです。

【医療保健学部医療情報学科】

大学生活で勉強だけでなく様々なことを学びました。今の就職先で活躍できるよう日々、精進しています。相談や悩んだときにアドバイスをいただいた事を感謝しています。大変お世話になりました。
年に1回でもいいので、卒業生の話聞く機会を作ってあげると良いと思います。経験や体験談など色々な話を多くの人から聞くことによって、少しでも将来のためになると考えています。
協働実践のような他職種と一緒に授業を行う機会があるのは、社会人になりとてもよい経験だったと改めて感じました。もっと、このような機会があればよかったです。また、もっとアクティブラーニングのような授業があれば良いと思います。

個人的に面接指導や履歴書の添削、内容確認等していただき、大変心強かったです。ただ、委員会等に所属していないと就職支援の方と交友を深められないため、相談し難いのではないかと思います。

【東が丘・立川看護学部 看護学科】

奨学金がありがたいです

先生、事務の方、みなさんが本当に優しく大切なことを教えていただき、感謝しかないです。

学部生時点で、保健師が取得できる制度があると良いと思います

就職活動に苦戦しましたが、ゼミの先生の履歴書の添削により、自分のことを客観視して整理して書くことができました。斎藤さんが、就活に苦戦してる中で話を聞いていただき気持ちが救われました。すごく時間がかかったの卒業でしたが、色々な先生に支援していただき、看護師として働くことができるようになったことに感謝申し上げます。

就職支援は良かった思います。

進学する学生への支援がもう少し欲しかったです。

看護学の演習は非常に充実した内容で今でも仕事に繋がっていると思う事があります。ゼミの先生には就職支援で大変お世話になりました。小論文の添削していただけるシステムもとても心強かったです。在学中にはあまり自覚していませんでしたが、THCUには色々なこととお世話になっていたと思います。本当にありがとうございました。

早期から小論文講座や面接講座などカリキュラムを組んでもらっていてありがたかったです。私は3年の3月末には就職試験を受けたので、小論文を添削していただける機会をうまく活用できませんでした。(添削結果を見てから修正し直す時間がなかった)自分で勉強しろという話ですが、添削していただける機会のある講座があるのであれば、それはもう少し早い時期にもらえるとう試験対策できるかなと思います。

科学研究費助成事業(科研費)説明会実施状況
(令和元年度～令和3年度)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
日時	1.8.2(金) 17:00～18:30 五反田キャンパス (雄湊キャンパスは 中継)	新型コロナウイルス 感染拡大防止の ため開催せず	3.8.10(火) 16:30～18:00 オンライン開催(Zoom)
テーマ	科研費に応募しよう!		科学研究費助成事業 について
講師	千葉大学医学部付属病 院 医療安全管理部 相馬 孝博 教授		文部科学省研究振興局 学術研究助成課 企画室長 高見沢 志郎 氏
参加者数	109名		155名

学校法人青葉学園 東京医療保健大学と品川区との連携・協力に関する包括協定書

学校法人青葉学園 東京医療保健大学（以下「甲」という。）と品川区（以下「乙」という。）は地域社会の発展を目的とした相互の連携・協力体制の一層の強化を図るため、次のとおり包括協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、甲および乙が保健・医療、教育・文化、福祉、産業振興、防災およびまちづくりの政策等における包括的連携のもと、甲の教育・研究機能の向上および乙における地域社会の課題解決を図り、もって地域社会の発展を図ることを目的とする。

（連携・協力事項）

第2条 前条の目的を達成するため、甲・乙は次の事項について連携し協力する。

- （1）甲・乙が有する知的資源、人的資源および物的資源の活用に関すること。
- （2）甲・乙が共同で実施する事業に関すること。
- （3）その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（連携推進体制）

第3条 甲および乙の連携・協力体制の円滑な推進を図るため、双方に窓口を設置し定期的な協議を行う。また、前条に基づき実施する事業等において、甲乙間の調整が必要な場合には適宜協議を行う。

（守秘義務）

第4条 甲および乙は、この協定に基づく連携・協力により知り得た個人情報に係わる情報を互いに相手の許可なく他に漏洩してはならない。

（有効期間）

第5条 この協定は、協定締結の日から効力を生じるものとし、期間は1年間とする。ただし期間満了の1か月前までに甲または乙のいずれからも特段の意思表示がない場合には、この協定の効力はその後1年間更新されるものとし、以後も同様とする。

（その他）

第6条 この協定に定める事項について疑義が生じたとき、または本協定に定めのない事項について必要があるときは、甲乙協議のうえこれを定めるものとする。

この協定書は2通作成し、甲乙記名押印のうえ、各自1通を保有する。

平成30年6月1日

（甲）東京都品川区東五反田四丁目1番17号

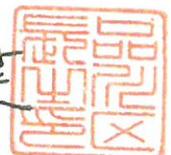
学校法人青葉学園 東京医療保健大学

理事長 田村 哲夫



（乙）東京都品川区広町二丁目1番36号

品川区長 濱野 健



東京医療保健大学と世田谷区教育委員会との連携に関する基本協定書

東京医療保健大学（以下「甲」という。）と世田谷区教育委員会（以下「乙」という。）は、相互の連携・協力について、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、甲と乙が包括的な連携のもと、相互の知的・人的資源等の交流・活用を図り、教育、文化等の分野において双方の発展と充実及び乙の所管する区立幼稚園及び区立小・中学校（以下「区立学校等」という。）の活性化に寄与することを目的とする。

（協力事項）

第2条 甲及び乙は、相互に協議のうえ、次の事項について連携し、協力する。

- (1) 区立学校等の教育活動等の支援に関すること
- (2) 甲の施設利用に関すること
- (3) その他、甲及び乙が必要と認める事項

（協議機関）

第3条 この協定書に基づき事業の円滑な推進を図るため、連携推進協議会を設置する。

（期間）

第4条 この協定書の有効期間は、協定締結の日から3年間とする。ただし、期間満了の6月前までに、甲乙のいずれからも別段の申し出がなされないときは、さらに3年間更新するものとし、その後も同様とする。

（その他）

第5条 この協定書に定めるもののほか、連携協力の細目その他の事項については、甲、乙が協議して別に定めるものとする。

以上のとおり協定を締結した証として、この証書2通を作成し、双方記名押印のうえ、各自1通を保有する。

平成17年 6 月 / 日

甲 東京都世田谷区世田谷三丁目11番3号
東京医療保健大学 学長

林 寛



乙 東京都世田谷区世田谷四丁目21番27号
世田谷区教育委員会 教育長

若井 正夫



東京医療保健大学と目黒区との連携・協力に関する基本協定書

東京医療保健大学（以下「大学」という。）と目黒区（以下「区」という。）は、これまで醸成してきた連携・協力関係をさらに発展させ、それぞれの社会的な役割を尊重し、双方向の連携をもって、これまで為し得なかった新たな価値や可能性を生み出し、明るく希望に満ちた地域社会を築くため、ここに基本協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、保健医療福祉の分野を中心に、大学と区の両者がそれぞれの特性を活かして連携・協力することで、ともに支え合い、健やかに安心して暮らせるまちの形成と、次代を担う創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

（連携・協力事項）

第2条 大学と区は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について連携・協力する。

- (1) 医療・保健福祉に関する事項
- (2) 健康教育・学習に関する事項
- (3) 地域との連携・協力に関する事項
- (4) 大規模災害発生時における連携・協力に関する事項
- (5) その他区と大学が必要と認める事項

（個別協定等）

第3条 前条の連携・協力事項を実施するため、必要に応じ本協定に基づく個別協定等を締結することができるものとする。

（協力方法等）

第4条 第2条に掲げる連携・協力事項の具体的実施に当たっては、大学と区の担当部署との協議の上、協力方法、成果の利用及び費用負担等について定めるものとする。

（協定書の有効期間）

第5条 本協定の有効期間は、協定締結日から5年間とする。ただし、大学と区が必要と認めるときは、協議により、その期間を更新できるものとする。

（その他）

第6条 本協定に定めのない事項又は疑義が生じたときは、その都度、大学と区との間で協議するものとする。

本協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、各々1通を保管する。

平成29年10月6日

学校法人青葉学園
東京医療保健大学理事長

目黒区長

田村哲久 

青木英二 

東京医療保健大学と立川市との連携及び協力に関する基本協定書

学校法人青葉学園東京医療保健大学（以下「甲」という。）と立川市（以下「乙」という。）は、これまで醸成してきた連携及び協力関係をさらに発展させ、それぞれの社会的な役割を尊重し、双方向の連携をもって、これまでなし得なかった新たな価値や可能性を生み出し、明るく希望に満ちた地域社会を築くため、ここに基本協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、保健医療福祉及び災害対策の分野を中心に、甲及び乙の両者がそれぞれの特性を活かして連携し、協力することで、ともに支え合い、健やかに安心して暮らせるまちの形成と、次代を担う創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

（連携及び協力事項）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について連携し、協力する。

- (1) 医療及び保健福祉に関する事項
- (2) 健康教育及び学習に関する事項
- (3) 地域との連携及び協力に関する事項
- (4) 大規模災害発生時における連携及び協力に関する事項
- (5) その他甲及び乙が必要と認める事項

（個別協定等）

第3条 前条各号に掲げる事項を実施するため、必要に応じ個別協定を締結するものとする。

（連携及び協力の方法等）

第4条 第2条各号に掲げる事項の実施に当たっては、甲及び乙が協議のうえ、連携及び協力の方法、成果の利用、費用負担等について定めるものとする。

（協定書の有効期間）

第5条 本協定の有効期間は、協定締結日から起算して5年とする。ただし、この協定が満了する日までに甲及び乙のいずれからも別段の申出がなされないときは、この協定の有効期間は、5年間更新されるものとし、その後も同様とする。

（その他）

第6条 本協定に定めのない事項又は疑義が生じたときは、その都度、甲及び乙が協議のうえ定めるものとする。

本協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、両者が記名押印のうえ、各自その1通を保管する。

平成31年 3月 7日

甲 東京都品川区東五反田4丁目1番17号
学校法人青葉学園
東京医療保健大学 理事長

田村 哲夫 

乙 立川市泉町1156番地の9
立川市
代表者 立川市長

清水 元 

東京医療保健大学と和歌山県教育委員会との連携協力に関する協定書

東京医療保健大学(以下「甲」という。)と和歌山県教育委員会(以下「乙」という。)とは、相互の人的・知的資源の交流・活用を図るとともに、教育上の諸課題に適切に対応することによって、相互の教育の充実・発展に資することを目的として、次のとおり協定する。

(連携協力の内容)

第1条 甲及び乙が連携協力する内容は、次のとおりとする。

- (1) 高等学校等の教育活動への支援に関すること
- (2) 多様な学習機会の提供に関すること
- (3) 教職員、学生及び児童生徒の交流・研究・研修に関すること
- (4) その他双方が必要と認める事項

(方法)

第2条 甲及び乙が連携協力するに当たっては、相互の教職員及び学生・生徒等の派遣及び受入れ並びに施設設備等の利用について、業務に支障のない限り互いに便宜を供するものとする。

(経費)

第3条 甲及び乙が連携協力するための経費の負担は、事業ごとに双方が協議して決定するものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成33年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の30日前までに、甲及び乙のいずれからも協定を終了する旨の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(補則)

第5条 この協定に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲及び乙が協議して別に定めることができるものとする。

- 2 この協定の内容を変更する必要がある場合は、甲及び乙が協議して決定するものとする。
- 3 この協定に定める事項に疑義が生じた場合は、甲及び乙が協議して解決を図るものとする。

この協定の証として、この証書2通を作成し、甲乙それぞれ記名押印の上、各自その1通を保有する。

平成30年4月6日

甲 東京医療保健大学

学 長

木村 哲



乙 和歌山県教育委員会

教育長

宮下和己



令和4年度 全学委員会委員名簿

R4.4.1

No.	委員会	委員長	委員										事務局担当	任期			
			(看)坂本副学長	(栄)小西副学長	(情)石原副学長	(東が丘)(立川)山西副学長	(千葉)宮本副学長	(和歌山)八島副学長	(看護学研究科)大島副学長								
1	内部質保証推進会議	亀山学長	(看)坂本副学長	(栄)小西副学長	(情)石原副学長	(東が丘)(立川)山西副学長	(千葉)宮本副学長	(和歌山)八島副学長	(看護学研究科)大島副学長				大学経営会議室長	事務局長	企画部	-	
2	危機管理委員会	亀山学長	(看)坂本副学長	(栄)小西副学長	(情)石原副学長	(東が丘)(立川)山西副学長	(千葉)宮本副学長	(和歌山)八島副学長	(看護学研究科)大島副学長				大学経営会議室長	事務局長	企画部	-	
3	外部評価委員会	—	奈良県立医科大学 今村教授	JR東京総合病院 高戸院長	東邦大学 盛田医学部長	東京大学医学部 ・大学院医学系研究科 山本教授									企画部	-	
4	自己点検・評価委員会	宮本副学長	(看)末永教授	(栄)加藤教授	(情)瀬戸教授	(東が丘)(看護学研究科)加藤(知)講師	(千葉)(千葉看護学研究科)吉田教授	(和歌山)(和歌山看護学研究科)八島学部長	(医療保健学研究科)菅原教授				大学経営会議室長	教務部長	企画部長	企画部	1年
			(看)阿部教授	(栄)御堂教授	(情)杉田講師	(立川)高木准教授	(和歌山)福山教授				事務局						
5	FD・SD委員会	小西副学長	(看)櫻井准教授	(栄)加藤教授	(情)深澤教授	(東が丘)(看護学研究科)加藤(知)講師	(千葉)(千葉看護学研究科)阿部教授	(和歌山)(和歌山看護学研究科)内海教授	(医療保健学研究科)松村准教授				総務人事部長	教務部長	企画部長	企画部	-
			(看)佐々木教授	(栄)三舟教授	(情)山本教授	(立川)高木准教授	(和歌山)南部教授	(千葉)(千葉看護学研究科)石井講師				研究協力部長					
6	教務委員会	石原副学長	(看)阿部教授	(栄)小城教授	(情)深澤教授	(東が丘)(看護学研究科)松山(友)教授	(立川)松谷教授	(千葉)清水教授	(和歌山)畑下教授	(医療保健学研究科)谷本教授	(千葉看護学研究科)小黒教授	(和歌山看護学研究科)南部教授	大学経営会議室長	事務局長	教務部長	教務部	2年
					(情)今泉教授			(千葉)伊東講師						学生支援センター長	大学院事務長		
7	アドミッション委員会	宮本副学長	(看)横山教授	(栄)酒井講師 (栄)細田准教授	(情)今泉教授	(東が丘)明石教授	(立川)久保教授	(千葉)吉田教授	(和歌山)土井教授				大学経営会議室長	入試事務部長	入試事務部	-	
8	広報委員会	山西副学長	副委員長 (看)原田准教授	(栄)齋藤准教授	副委員長 (情)今泉教授	副委員長 (東)小野教授	副委員長 (千)田久保准教授	副委員長 (和)入駒教授					学生募集部長	入試事務部長	学生募集部	-	
			(看)渡會教授	(栄)西念教授	(情)岩上助教	(立川)テイラー准教授	(千葉)渡邊准教授	(和歌山)武内准教授									
9	教職課程委員会	(看)砂村教授	(栄)豊田教授	(千葉)鈴木講師	(和歌山)入駒教授								教務部長		教務部	-	
10	図書委員会	(図書館長) (栄)小城教授	(看)島田准教授	(栄)清水准教授	(情)金澤講師	(東が丘)明石教授	(立川)衣川教授	(千葉)遠藤准教授	(和歌山)高村准教授				経理財務部長	教務部長	図書館	-	
11	障がい学生修学支援委員会	石原副学長	(看)砂村教授	(栄)神田准教授	(情)柴野講師	(東が丘)金子(あ)准教授	(立川)堀田講師	(千葉)安藤准教授	(和歌山)串橋講師				教務部長	学生支援センター長	学生支援センター	-	
			(看)大金准教授	(栄)豊田教授	(情)木村助教												
12	公開講座委員会	坂本副学長	(看)渡會教授	(栄)豊田教授 梶准教授	(情)山本教授	(東が丘)松本准教授	(立川)内藤准教授	(千葉)渡邊准教授	(和歌山)吉村准教授				教務部長	研究協力部長	企画部長	企画部	1年

令和4年度 全学委員会委員名簿

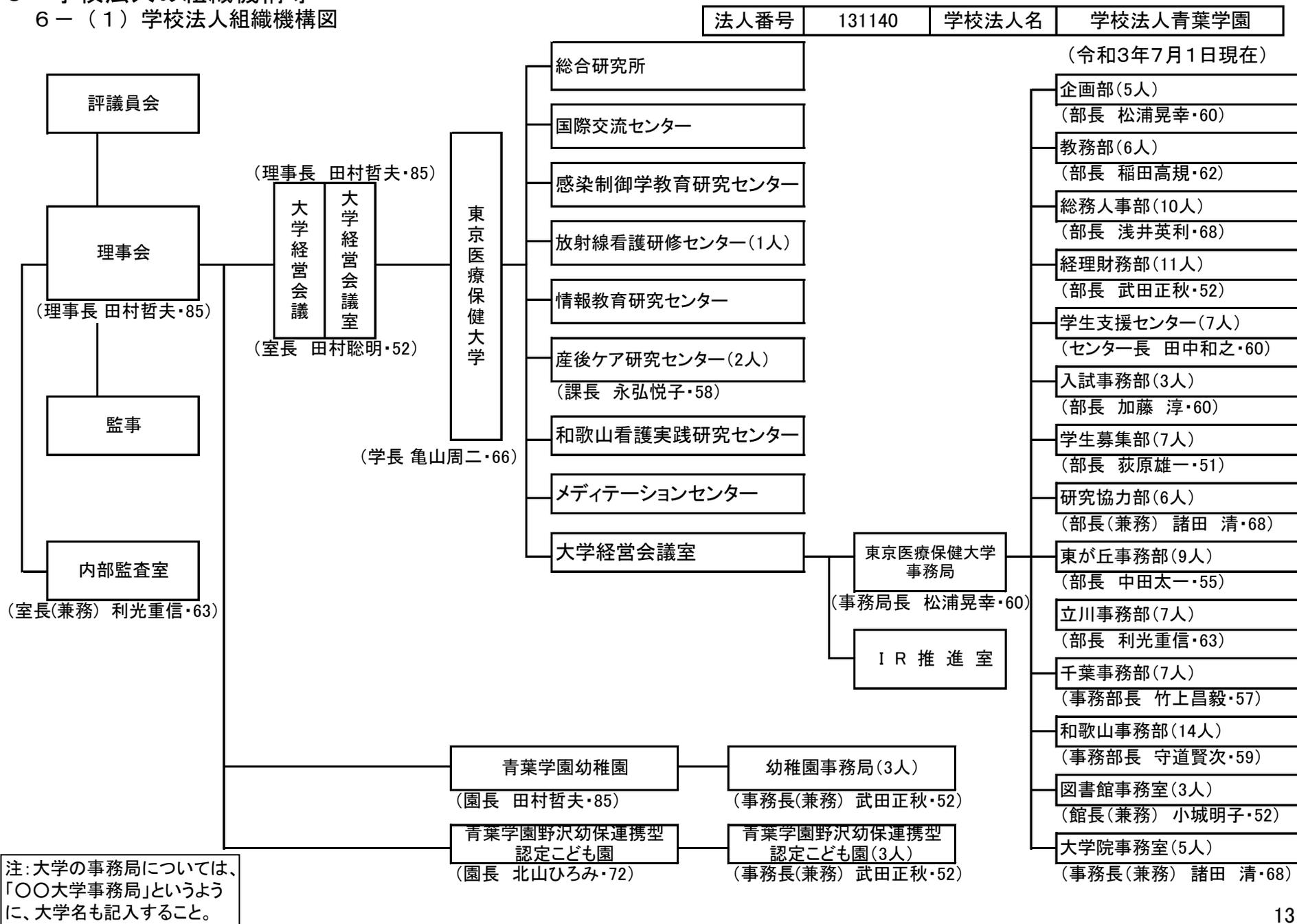
R4.4.1

委員会	委員長	委員											事務局担当	任期			
		(看) 佐々木教授	(栄) 小西学科長	(情) 今泉教授	(東が丘) 浦中准教授	(立川) 衣川教授	(千葉) 宮本学科長	(和歌山) 八島学科長									
13	将来構想委員会 坂本副学長	(看) 佐々木教授	(栄) 小西学科長 (栄) 御堂教授	(情) 今泉教授	(東が丘) 浦中准教授	(立川) 衣川教授	(千葉) 宮本学科長	(和歌山) 八島学科長					大学経営会議室長	経理財務部長		総務人事部	2年
													事務局長	総務人事部長			
14	研究倫理委員会 (看) 坂本副学長	副委員長 (看護学研究科) 大島副学長	(栄) 小西副学長	(情) 石原副学長	(東が丘)(立川) 山西副学長	(千葉) 宮本副学長	(和歌山) 八島副学長	(学外有識者) 吉村 公雄	(学外有識者) 横溝 久美				大学経営会議室長	事務局長	研究協力部長	研究協力部	1年
15	人権倫理委員会 小西副学長	(看) 砂村教授 (看) 大金准教授	(栄) 金田准教授	(情) 深澤教授 (情) 山本教授	(東が丘) 田中教授 (立川) 村松教授	(千葉) 吉田教授 (千葉) 小黒教授	(和歌山) 福山教授 (和歌山) 甲村准教授						総務人事部長	健康管理課長		総務人事部	1年
16	衛生委員会 (産業医) 小西副学長	(五反田) 山本(由)助教	(世田谷) 梶准教授	(東が丘) 新山准教授	(立川) 藤村准教授	(千葉) 伊藤准教授	(和歌山) 北端准教授						総務人事部長	健康管理課長		総務人事部	2年
17	個人情報保護委員会 大島副学長	副委員長 (情) 瀬戸教授	(看) 廣島教授 (看) 吉田教授	(栄) 三舟教授	(情) 山本教授	(東が丘) 田中教授 (立川) 青木教授	(千葉) 小黒教授 (千葉) 菊池准教授	(和歌山) 辻准教授 (和歌山) 宇田准教授					入試事務部長	教務部長	総務人事部長	学生支援センター	1年
													健康管理課長	学生支援センター長			
18	国際交流委員会 坂本副学長	(看) 松尾講師 (看) 大堀助教	(栄) 梶 准教授 (栄) 神田准教授	(情) 駒崎講師 (情) 山邊助教	(東が丘) 朝澤准教授 (立川) 黒澤准教授	(千葉) 菊池准教授 (千葉) 鎌田助教	(和歌山) 畑下教授 (和歌山) 福井講師						大学経営会議室長	事務局長	教務部長	研究協力部	2年
													学生支援センター長	研究協力部長			
19	動物実験委員会 石原副学長	(看) 岩澤教授	(看) 高野講師	(栄) 加藤教授	(情) 柴野講師	(東が丘・立川) 小宇田准教授	(千葉) 藤巻講師	(和歌山) 鈴木講師	(学外有識者) 伊藤 典彦				研究協力部長			研究協力部	1年
20	ヒトに関する研究倫理委員会 (看) 廣島教授	(看) 李教授 (看) 岩澤教授	(栄) 小西学科長 (栄) 齋藤准教授 (栄) 北島准教授	(情) 柴野講師 (情) 安枝助教	(東が丘)(看護学研究科) 大島教授 (東が丘)(看護学研究科) 小野教授 (東が丘)(看護学研究科) 竹内教授	(東が丘)(看護学研究科) 小宇田准教授 (立川) 久保教授	(千葉)(看護学研究科) 田久保准教授 (千葉)(看護学研究科) 田所講師	(和歌山)(看護学研究科) 内海教授 (和歌山) 土井教授	(医療保健学研究科) 山本(伸)准教授	(学外有識者) 吉村 公雄 (学外有識者) 横溝 久美	(学外有識者) 今井克治 (学外有識者) 長谷川一恵		研究協力部長			研究協力部	1年
21	紀要委員会 小西副学長	(看) 菅原教授 (看) 渡辺講師	(栄) 加藤教授 (栄) 北島准教授	(情) 金澤講師 (情) 木村助教	(東が丘)(看護学研究科) 竹内教授 (立川) 桜井(礼)教授	(千葉)(看護学研究科) 清水教授 (千葉)(看護学研究科) 新井講師	(和歌山)(看護学研究科) 武内准教授 (和歌山) 近藤准教授	(医療保健学研究科) 松村准教授					研究協力部長			研究協力部	2年

【学校法人実態調査表(令和3度)】

6 学校法人の組織機構等

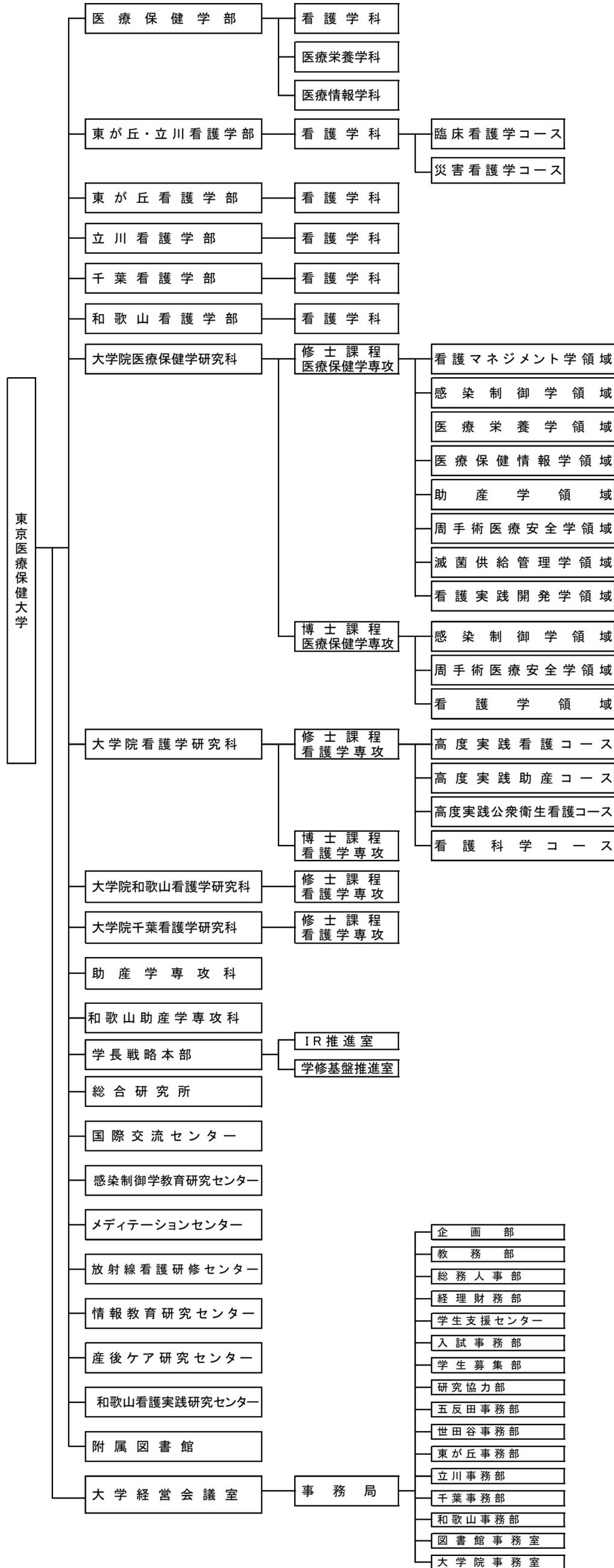
6- (1) 学校法人組織機構図



注:大学の事務局については、「〇〇大学事務局」というように、大学名も記入すること。

東京医療保健大学組織図

令和4年4月1日



令和3年度 研修会の主な参加状況

	主催団体等	研修会等名	年月日	参加職員数(名)
1	公益財団法人 東京都私学財団	学校会計講座(入門)	3. 6. 28 ～ 3. 6. 29	経理財務部職員 2名
2	公益財団法人 東京都私学財団	学校会計講座(初級)	3. 8. 16 ～ 3. 8. 19	経理財務部職員 2名
3	独立行政法人 大学改革 支援・学位授与機構	令和3年度大学質保証フォーラム 「オンライン教育の支援と質保証 ーコロナ時代を超えて」	3. 9. 13	東が丘事務部職員 1名
4	国立情報学研究所	大学図書館職員短期研修 (Zoom参加)	3. 10. 26 ～ 3. 10. 29	図書館事務室職員 1名
5	株式会社 内田洋行 大学高校実践ソリューションセ ミナー事務局	大学・高校実践ソリューションセ ミナー 2021 秋オンライン	3. 10. 26 11. 2 11. 15	東が丘事務部職員 1名
6	東京都福祉保健局	令和3年度栄養士・管理栄養士養成 施設連絡会	3. 10. 28	教務部職員 1名 医療栄養学科教員 1名
7	図書館総合展運営委員会	第23回図書館総合展 (YouTube Live 録画配信)	3. 11. 1 ～ 3. 11. 30	図書館事務室職員 1名
8	医学中央雑誌刊行会	医中誌 Web 最新情報 2021 (Zoom参加)	3. 11. 2	図書館事務室職員 1名
9	株式会社 内田洋行	「みんなでつくろう!みんなでまわそ う!シミュレーションセンター」 オンラインセミナーを京都橋大学で リアルタイム視聴ツアーWith 京都科 学工場見学	3. 11. 2	教務部職員 1名 医療情報学科教員 2名
10	特定非営利活動法人 日本医学図書館協会/ 日本薬学図書館協議会	医薬生物学分野におけるプレプリント をめぐる動向 (YouTube 事後録画配信)	3. 11. 11	図書館事務室職員 1名
11	第107回全国図書館大会 山梨大会	分科会「新型コロナウイルス感染拡大 と大学図書館」 (Zoom 事後録画配信)	3. 11. 12	図書館事務室職員 1名
12	図書館総合展運営委員会	学術コミュニケーションの動向 2020-2021 (YouTube Live 配信)	3. 11. 16	図書館事務室職員 1名
13	公益財団法人 大学コンソーシアム京都	SD 共同研修プログラム「定時で終え るために今からできるタイムマネジ メント」	3. 11. 17	和歌山事務部職員 1名
14	株式会社 早稲田大学アカデミック ソリューション	大学職員としての働きがいのある「業 務と職場」の生み出し方～個人と組織 の力の両方が育成される好循環～ (Zoom参加)	3. 11. 18	和歌山事務部職員 1名
15	朝日新聞社	聞蔵→朝日新聞クロスサーチへ (Zoom参加)	3. 11. 19	図書館事務室職員 1名
16	図書館総合展運営委員会	図書館とデジタルメディア、融合の可 能性 (Zoom参加)	3. 11. 27	図書館事務室職員 1名

	主催団体等	研修会等名	年月日	参加職員数（名）
17	医学情報サービス研究 大会 2021 講演会	研究者を欺くハゲタカビジネスの現況 (Zoom 参加)	3. 12. 4	図書館事務室職員 1名
18	文化庁	令和3年図書館等職員著作権実務 講習会 (YouTube Live 録画配信)	3. 12. 13 ～ 3. 12. 27	図書館事務室職員 1名
19	名古屋大学高等教育研究 センター	新任係長・主任のためのマネジメント セミナー (Zoom 参加)	3. 12. 21	和歌山事務部職員 1名
20	千葉県健康福祉部	保健医療従事者等研修会 (Zoom 参加)	4. 1. 20	千葉事務部職員 1名
21	日本図書館研究会 情報組織化研究グループ	新たな図書館システム・ネットワーク におけるメタデータ：共同利用システ ムをめぐる様相 (Zoom 参加)	4. 1. 22	図書館事務室職員 1名
22	公益社団法人 日本実験動物学会	動物実験の外部検証 令和4年度の 実施に向けた事前説明会	4. 1. 28	研究協力部職員 1名

東京医療保健大学の財政計画（平成29年度～平成33年度）

(1) 資金収支の状況

科 目		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
収入 の 部	学生生徒等納付金収入	3,206,125	3,463,025	3,836,130	4,164,430	4,477,830
	手数料収入	125,375	125,375	125,375	125,375	125,375
	寄付金収入	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
	補助金収入	475,000	959,000	475,000	575,000	475,000
	国庫補助金	475,000	475,000	475,000	475,000	475,000
	都道府県補助金	0	130,000	0	100,000	0
	市区町村補助金	0	354,000	0	0	0
	資産売却収入	0	0	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000
	受取利息・配当金収入	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
	雑収入	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000
	借入金等収入	1,350,000	1,000,000	1,100,000	1,000,000	800,000
合 計	5,314,200	5,705,100	5,694,205	6,022,505	6,035,905	
支出 の 部	人件費支出	2,153,800	2,509,195	2,781,413	2,875,957	2,879,707
	教育研究経費支出	851,500	967,419	1,052,719	1,165,394	1,232,769
	管理経費支出	385,000	403,457	422,816	446,923	467,456
	借入金等利息支出	42,250	51,250	61,750	75,125	87,500
	借入金等返済支出	797,892	1,293,300	843,300	943,300	843,300
	施設関係支出	400,000	0	100,000	0	0
	設備関係支出	400,000	355,000	380,000	400,000	420,000
合 計	5,030,442	5,579,621	5,641,998	5,906,699	5,930,732	

(2) 事業活動収支の状況

科 目		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
教育活動収支	事業活動収入	学生生徒等納付金	3,206,125	3,463,025	3,836,130	4,164,430	4,477,830
		手数料	125,375	125,375	125,375	125,375	125,375
		寄付金	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
		経常費等補助金	475,000	959,000	475,000	575,000	475,000
		付随事業収入	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000
		雑収入	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000
		教育活動収入計	3,962,500	4,703,400	4,592,505	5,020,805	5,234,205
	事業活動支出	人件費	2,193,800	2,549,195	2,821,413	2,915,957	2,919,707
		教育研究経費	1,201,500	1,343,719	1,453,419	1,571,394	1,643,469
		うち、減価償却費	350,000	376,300	400,700	406,000	410,700
		管理経費	433,000	460,157	485,116	510,123	531,356
		うち、減価償却費	48,000	56,700	62,300	63,200	63,900
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	3,828,300	4,353,071	4,759,948	4,997,474	5,094,532
教育活動収支差額	134,200	350,329	▲ 167,443	23,331	139,673		
教育活動外収支	事業収入活動	受取利息・配当金	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
	事業支出活動	借入金等利息	42,250	51,250	61,750	75,125	87,500
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	42,250	51,250	61,750	75,125	87,500
教育活動外収支差額	▲ 40,550	▲ 49,550	▲ 60,050	▲ 73,425	▲ 85,800		
経常収入	3,964,200	4,705,100	4,594,205	5,022,505	5,235,905		
経常収支差額	93,650	300,779	▲ 227,493	▲ 50,094	53,873		
特別収支	事業収入活動	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	0	0	0	0	0
		特別収入計	0	0	0	0	0
	事業支出活動	資産処分差額	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
特別収支差額	▲ 5,000	▲ 5,000	▲ 5,000	▲ 5,000	▲ 5,000		
基本金繰入前収支差額	88,650	295,779	▲ 232,493	▲ 55,094	48,873		
事業活動収入計	3,964,200	4,705,100	4,594,205	5,022,505	5,235,905		
事業活動支出計	3,875,550	4,409,321	4,826,698	5,077,599	5,187,032		

東京医療保健大学の財務に係る年度別比率目標（平成29年度～平成33年度）

（平成27年度私大平均は、日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」（平成29年1月発行）による、大学部門 学生数1～3千人規模の211校平均値である。） 単位：%

		算 式（*100）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
			私大平均	実績	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
1	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	59.5	56.7	55.3	54.2	61.4	58.1	55.8
			平成30年度に開学する和歌山看護学部、千葉看護学部は、平成33年度まで経常費補助金が支給されないのに加え、人件費等経費支出が学生納付金収入より先行するため平成31年度、32年度は、平成28年度実績より高め目標値となるが、平成33年度の完成年度には、平成28年度実績より下回る目標値とした。						
2	人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}$	76.7	70.3	68.4	73.6	73.5	70.0	65.2
			平成30年度から開学する和歌山看護学部、千葉看護学部は、学生生徒等納付金収入より、人件費が先行するため、平成30年度、31年度は平成28年度実績より高め目標値とした。						
3	教 育 研 究 経 費 比 率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	35.2	31.4	30.3	28.6	31.6	31.3	31.4
			この比率は高すぎると事業収支均衡を崩す要因となるため、30%を少し超える目標値とした。平成30年度は和歌山県と和歌山市からの454百万円の設置経費補助金が見込まれるため30%を少し下回る目標値とした。						
4	管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	8.5	10.4	10.9	9.8	10.6	10.2	10.1
			平成28年度実績が10.4%であり、私大平均8.5%より高いことから、平成33年度の和歌山看護学部、千葉看護学部の完成年度には、平成28年度実績を下回る10.1%の目標値とした。						
5	借 入 金 等 利 息 比 率	$\frac{\text{借 入 金 等 利 息}}{\text{経 常 収 入}}$	0.2	0.9	1.1	1.1	1.3	1.5	1.7
			平成28年度実績は0.9%で、私大平均0.2%より高めとなっている。今後、平成30年度に開学する和歌山看護学部、千葉看護学部の改修費などを借入にて調達する計画で高め目標値とした。						
6	事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 前 収 支 差 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	▲ 4.5	0.9	2.2	6.3	▲ 5.1	▲ 1.1	0.9
			私大平均は、-4.5%とマイナスだが、平成28年度実績を踏まえ各年度ともプラス目標値としたいところだが、和歌山看護学部、千葉看護学部とも、平成33年度まで経常費補助金が支給されないのに加え、人件費等経費支出が学生納付金収入より先行するため、平成31年度、32年度はマイナスの目標値とした。						
7	事 業 活 動 支 出 比 率	$\frac{\text{事 業 活 動 支 出}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	104.5	99.1	97.7	93.7	105.1	101.1	99.1
			この数値は低いことが望ましいが、和歌山看護学部、千葉看護学部とも、平成33年度まで経常費補助金が支給されないのに加え、人件費等経費支出が学生納付金収入より先行するため、平成31年度、32年度は100%を超える目標値とした。						
8	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{経 常 収 入}}$	77.5	80.7	80.9	73.6	83.5	82.9	85.5
			この数値は、安定的に推移すること、かつ比率があまり高くない方が望ましいが、和歌山看護学部、千葉看護学部の学生生徒等納付金が年度進行で増加すること、両学部とも平成33年度まで経常費補助金が支給されないため、私大平均より高め目標値とした。						
9	寄 付 金 比 率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	1.7	1.1	1.1	1.2	1.2	1.3	1.3
			平成28年度実績は1.1%であり、私大平均1.7%を下回っていることから、寄付金収入確保のため、2年毎に0.1%増加する目標値とした。						
10	補 助 金 比 率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	13.1	12.5	11.9	20.4	10.3	11.4	9.1
			平成30年度に開学する和歌山看護学部、千葉看護学部は、平成33年度までは未完成学部のため経常費補助金は支給されないため、私大平均より低めの目標値とした。ただし、平成30年度は、和歌山県、和歌山市より454百万円の設置経費補助金が見込まれ20.4%の目標値とした。						